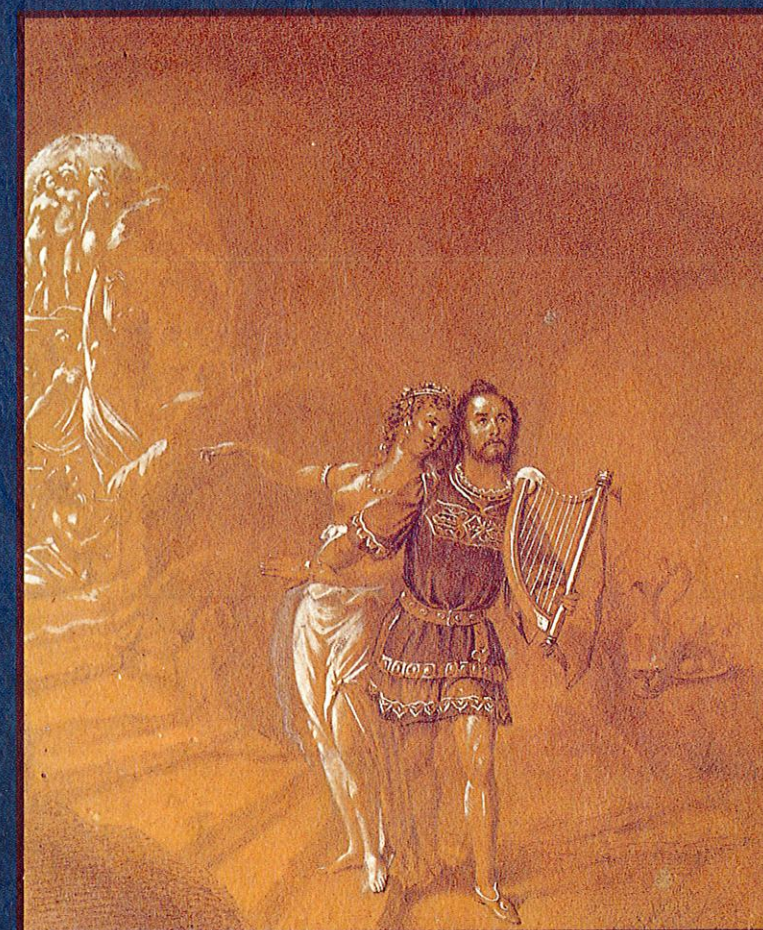




1993.11.3. フェスティバルホール



第20回
関西六大学
合唱演奏会

第20回

関西六大学合唱演奏会

1993年11月3日(祝)フェスティバルホール

御挨拶

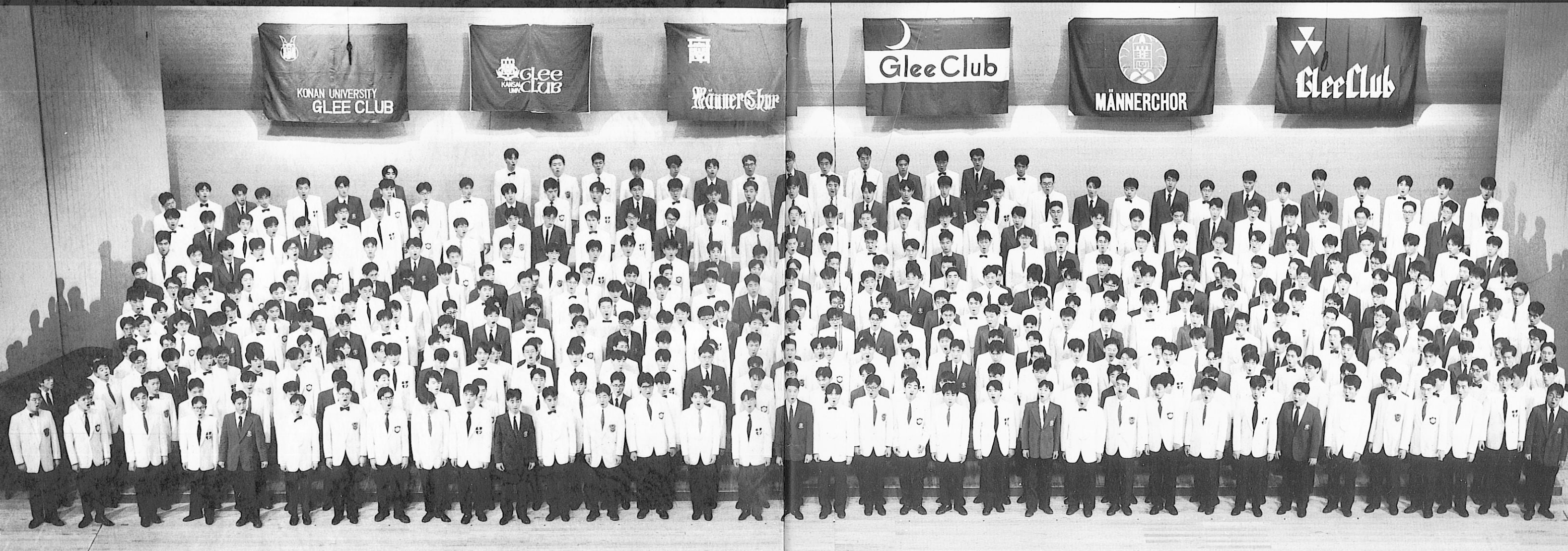
「男声合唱を通して、各国相互の親睦をはかると共に、関西合唱界の発展に寄与する」—そんな思いで六団が集まり、第1回演奏会を開催して以来、今年で20回目を迎えるに至りました。

何事に於ても安易な方向に進みがちな現代の若者気質にあって、このような大所帯の演奏会の20年にも及ぶ継続を支えたものは、演奏会終了後に沸き起こる、次の機会への新たな競走意識の高揚でした。その各団の激しい深層心理があったからこそ、試行錯誤を繰り返しながら一つの大きな目標に邁進することができたのです。

各団とも、これ迄の伝統を継承しつつも甘んじることなく新鮮な気持ちで今日まで練習を重ねてきました。今宵、その成果を十分に発揮できたならばこれ以上の喜びはございません。

最後に、本日の演奏会を開催するにあたり御指導・御協力下さいました諸先生方、関係者の皆様、そして本日御来場下さいました皆様に心より御礼申し上げます。

関西六大学合唱連盟



DOSHISHA COLLEGE SONG

One purpose Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim.
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine.
Tho' through the world we wander
far and wide.
Still in our hearts thy precepts
shall abide.

大阪大学学生歌

生駒の嶺に 朝影さして
緑風さやけき 銀杏の木蔭
若きいのちは 力あふれて
歌ぞおほらに 望みはるけし
叡智の泉 掬みてつきせず
ほこりあり 真理の岡辺

甲南学園歌

みはるかす 茅渚の海
日にひかり 雨にけむり
わかうどの 夢をさそう
甲南 この学び舎
わがみちを すすめとの
遺訓あり まもり活かす
わかうどの 誓い固し
甲南 この学び舎

関西大学学歌

自然の秀麗 人の親和
たぐいなき 此の学園
我等立つ 人生の曙に
燦たる理想を 仰ぎつつ
学ぶは一途 純正の
若き心に 讃えなん
関西大学 関西大学
関西大学 長き歴史

立命館大学校歌

あかき血潮胸にみちて
若人真理の泉を汲みつ
仰げば比叡 千古のみどり
ふす目に清しや 鴨の流れの
かがみもたふとし 天の明命
見よ わが母校
立命 立命

OLD KWANSEI

Tune ev'ry heart and ev'ry voice,
Throw ev'ry care away:
Let all with one accord rejoice,
In praise of Old Kwansei:
In praise of Old Kwansei Gakuin,
In praise of Old Kwansei,
Her sons will give, while they shall live,
Banzai, Banzai, Kwansei!

エール交歓

同志社グリークラブ
大阪大学男声合唱団
甲南大学グリークラブ
関西大学グリークラブ
立命館大学メンネルコール
関西学院グリークラブ

同志社グリークラブ

男声合唱曲「永訣の朝」

作詩：宮澤 賢治
作曲：鈴木 憲夫
指揮：福田 研二
ピアノ：長田 育忠

大阪大学男声合唱団

男声合唱組曲「木下杢太郎の詩から」

I. 兩國
II. こほろぎ
III. 柑子
IV. 雪中の葬列
V. 市場所見

作詩：木下杢太郎
作曲：多田 武彦
指揮：大堀 力

甲南大学グリークラブ

シューベルト男声合唱曲集

Die Nacht
Der Gondelfahrer
Widerspruch
Trinklied
Gott meine Zuversicht
-PSALM 23-

作曲：Franz Schubert
指揮：江口 寿
ピアノ：今岡 淑子

— Intermission —

関西大学グリークラブ

男声合唱組曲「草野心平の詩から・第三」

I. 原子
II. 地球
III. 猛烈な天
IV. 宇宙線驟雨のなかで
V. 夜の海

作詩：草野 心平
作曲：多田 武彦
指揮：小栗 知之



立命館大学メンネルコール

「IN TERRA PAX」 地に平和を

—男声合唱とピアノのための—

知った
OH MY SOLDIER
花をさがす少女
ほうけた母の子守歌
IN TERRA PAX-地に平和を-

作詩：鶴見 正夫
作曲：萩久保和明
指揮：川本 光哉
ピアノ：上野 順子



関西学院グリークラブ

コダーイ男声合唱曲集

HUSZT
ÉNEK SZENT ISTVÁN KIRÁLYHOZ
MULATÓ GAJD
FÖLSZÁLLOTT A PÁVA
KARÁDI NÓTÁK

作曲：Kodály Zoltán
指揮：丸山 武彦



合同演奏

「TANNHÄUSER」より

第2幕第4場より『大行進曲』
第1幕第3場より『巡礼の合唱』
第3幕第1場より『巡礼の合唱』
第2幕第4場より『フィナーレ』

作曲：Richard Wagner
編曲：福永陽一郎
指揮：佐々木 修
独唱：垣花 洋子
管弦楽伴奏：大阪シムフォニー

男声合唱組曲

朝の訣永

詩人宮澤憲治によって書かれたこの「永訣の朝」は、憲治26歳、妹とし24歳、としの死の直後作詩されました。また同じ日に「松の針」「無声慟哭」の二篇の詩が書かれていることや、後、大正12年には青森、北海道、樺太に旅行し、妹としへの五篇の晩歌を残していることから、憲治にとって妹としの死がいかに悲痛なものであったかを窺い知ることが出来ます。また信仰熱心な父親とは、宗派の違う法華経を選んだ憲治とその信仰を同じくし、憲治の描く心象世界に理解を示してくれた妹としの存在は、憲治にとって、かけがえのないものであったと思われます。

私が「永訣の朝」を初めて目にしたのは、高校二年、授業で教わったときでした。それまで宮澤憲治といえば「雨ニモマケズ」や、2、3の童話しか知らなかったのですが、皆さんはいかがでしょうか。まだ読んだことのない、あるいは忘れてしまわれた方は、ちょっとそこに書かれてある詩を読んでみて下さい。決して難しいものではありませんから。

——さて、読んでいただけたでしょうか。それでは、高校時代に話を戻します。

「永訣の朝」を教えて下さった先生は、いつもスーツにゴム長ぐつ、という姿が印象的な、少し風変わりな面白い先生でした。そして「永訣の朝」は先生の好きな詩の一つだったようで、とても熱心に教えて下さいました。その中でとくに印象に残った内容に、こんなものがあります。それは、詩の中に出てくる、次に箇所の内容で、

(うまれてくるたて

こんどはこたにわりやのごとばかりで

くるしまあよにうまれてくる)

単純に読んでしまうと「なんで自分ばかり、こんなに苦しい思いをしなくてはならないんだ」という恨み言にも、とられてしまいがちなのですが、先生はこうおっしゃいました。「ここは、自分だけでなく、もっと周りの人達のために苦勞をして生きたい、という意味が込められているんだ。」

憲治は、その心情を察したのでしょう。今まで「ひとわん」であった雪が、この後「ふたわん」になっています。そして、おまえ(とし)とみんな(周りの人達)のすべての幸いを願って、この詩を閉じているのです。

やがてはおまへとみんなとに

聖い資糧をもたらしことを

わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ



指揮者 福田 研二

1971年京都府生まれ。幼少の頃よりピアノに親しみ、高校時代には友人からの勧めを受けて合唱部に入部。その後同志社大学入学と同時にグリークラブに入部。今年一月には第62代学生指揮者に選出され、二月のフェアウェルコンサートにおいて「メンデルスゾーン男声合唱曲集」を指揮して、鮮やかに指揮者デビューを飾る。

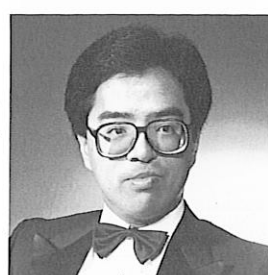
その小さな体から沸き起こる合唱への情熱は同グリの源であり、「フクちゃん」の愛称で親しまれる人柄と愛くるしい笑顔(エヘヘ)は部員にとっての心の安らぎとなっている。今年の東西四連前にいきなり坊主頭にして部員一同を大いに驚かせたが、その原因は今もって神秘のヴェールに包まれたままであるが、酒グセの悪さは衆知の事実であり、所かまわず抱きつく癖は今なお健在である。

今宵、彼の指揮する「永訣の朝」は、彼が高校の時より温めてきた曲である。その熱い思いで、聴衆の皆さんと感動を共有できることであろう。どうぞご期待!!

ピアノ伴奏 長田 育忠

同志社大学法学部卒業。
器楽・独唱・合唱等の伴奏者として、また宗教音楽のオルガニストとして数々の演奏会に出演。1986年6月、90年1月、91年1月にジョイントリサイタルを開催。ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎孝、ジョルジ・ナードル、H. ビュイグ＝ロジェの諸氏に師事。また歌曲伴奏法をルドルフ・ヤンセン氏に師事。

社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員。



けふのうちに
とほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ
みぞれがふつておもてはへんにあかるのだ

註1

(あめゆじゆとてちてけんじや)

うすあかくいつそう陰惨な雲から

みぞれはびちよびちよふつてくる

(あめゆじゆとてちてけんじや)

青い蕁菜のもやうのついた

これらふたつのかけた陶甕に

おまへがたべるあめゆきをとりうとして

わたくしはまがつたてつぼうだまのやうに

このくらいみぞれのなかに飛びだした

(あめゆじゆとてちてけんじや)

蒼鉛いろの暗い雲から

みぞれはびちよびちよ沈んでくる

ああとし子

死ぬといふいまごろになつて

わたくしをいつしやうあかるくするために

こんなさつぱりした雪のひとわんを

おまへはわたくしにたのんだのだ

ありがたうわたくしのけなげないもうとよ

わたくしもまっすぐにすすんでいくから

(あめゆじゆとてちてけんじや)

はげしいはげしい熱やあへぎのあひだから

おまへはわたくしにたのんだのだ

銀河や太陽 気圏などとよばれたせかいの

そらからおちた雪のさいごのひとわんを……

……ふたきれのみかげせきざいに

みぞれはさみしくたまっている

わたくしはそのうへにあぶなくたち

雪と水とのまっしろな二相系をたち

すきとほるつめたい雲にみちた

このつややかな松のえだから

わたくしのやさしいもうとよ

さいごのたべものをもらつていかう

わたしたちがいつしよにそだつてきたあひだ

みなれたちやわんのこの藍のもやうにも

もうけふおまへはわかれてしまふ

註2

(Ora Ora de shitori egumo)

ほんたうにけふおまへはわかれてしまふ

あああのとざされた病室の

くらいびやうぶやかやのなかに

やさしくあをじろく燃えてゐる

わたくしのけなげないもうとよ

この雪はどこをえらばうにも

あんまりどこもまっしろなのだ

あんなおそろしいみだれたそらから
このうつくしい雪がきたのだ

註3

(うまれてくるたて

こんどはこたにわりやのごとばかりで

くるしまあよにうまれてくる)

おまへがたべるこのふたわんのゆきに

わたくしはいまここからいのる

どうかこれが兜卒の天の食に変わって

やがてはおまへとみんなとに

聖い資糧をもたらしことを

わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ

註1 あめゆきとてきてください。

註2 わたしはわたしでひとりていきます。

註3 またひとにうまれてくるときは

こんなにじぶんのことばかりで

くるしまないようになつてきます。



男声合唱組曲

木下空太郎
の詩から

空太郎が詩人として活動したのは彼の人生の前半期だけで彼の詩のほとんどが明治40年からの5年間で書かれた。彼の最も有名な詩の一つである「兩國」も明治43年の作である。そしてこの明治43年はパンの会が最も盛況を極めていた頃でもあった。

パンの会は明治41年から木下空太郎、北原白秋らと、画家である石井柏亭を中心として隅田河岸、兩國西たもとに近い第一やまとというレストランで始まる。パンはギリシア神話の牧羊神のことで、その姿から半獣神とも呼ばれる。そのパンの名をとって青春の芸術を象徴した、文学と美術の交流の会がパンの会であった。このパンの会の発起人であり、名付け親でもあったのが空太郎である。空太郎はこのパンの会の盛況と共に、詩人としての地位を固めてゆくことになる。

パンの会に芸術家に共通するものは時代の推移によって次第に忘れられようとする古いもの、とりわけ江戸につながる古い生活情緒への郷愁であった。空太郎がパンの会の会場を隅田河岸に選んだのも、そこが葛飾北斎や安藤広重その他の江戸の絵師たちが好んで錦絵にした所だったからである。パンの会の特色の一つとされる江戸情調的詩風も、期せずしてそこから起こったのであった。とは言え、空太郎が意識的に演出したかったのは、単に古調を愛する回顧的江戸趣味などではなく、むしろそれとは反対の異国趣味とも言うべき江戸情調であったことは彼の作品を見れば容易に想像出来る。

空太郎の詩は象徴詩に分類されるが、従来の象徴詩と違って絵画的なイメージを印象派風にスケッチして、その全体から一種独特の美しいムード(情調)を醸成させているのが特徴である。それは、パンの会以前には見られなかった空太郎の新詩風と言ってもよい。彼自身が画家でもあったこと、パンの会が文学者だけの集まりでなく美術家達との交流の場であったことが彼の詩風に大きな影響を与えたのであろう。この「情調」という言葉についてあるエピソードがある。空太郎は、確立されたばかりの日本の象徴詩をどのように新時代の詩に発展させるかを考えるにあたって、ドイツ語のステイムング(Stimmung)英語でいうムード(mood)という言葉に注目する。その頃英語のエモーション(emotion)の訳語である。「情緒」とよく混同して「情調」という言葉が使われていたが、そてをステイムング(ムード)の訳語とし、はっきりと「情調」を区別したのである。その後明確にこの「情調」を意識して作品を書く様になり、その実験的作品として初めて詩に「情調」という訳語を使ったのが「都会情調」であり「異国情調」であった。そして詩全体に流れるこの「情調」こそ空太郎の詩の最大の特徴となり最大の魅力となっていくのであった。

指揮者 大堀 力

大堀力22才。別名「チカラ」。石川県金沢市生まれ。神戸市立中学でバスバンド部、合唱の名門神戸高校時代には何故か陸上部に所属。「チカラ」はその後大阪大学基礎工学部情報科学科に入学合格。大阪大学男声合唱団に入団。今年1月、第40回定期演奏会において「JEROME ROBEIN'S BROADWAY」にて指揮者デビュー。

「チカラ」は指揮者という役職がとても好きである。……「チカラさん昨日いなかったみたいですけどどこにいったんですか?」「いやー♥、ちょっと指揮者に会ってテサ」「またですか…」

その名のごとく阪大男声をチカラ強くひっぱっていく「チカラ」は指揮者という役職がやっぱり好きらしい。……「あれー、チカラさん部屋の電気ついてますよ」「あーちょっと指揮者がきてテサ♥」「あー、またかいや」

「チカラ、この前どうして遅刻してん」「えっ?ちょっと家に指揮者が2人来ててん」「はあ?」…表情豊かな指揮と巧みな言葉で僕らを音楽の世界に導いてくれる「チカラ」は去年といわず今年も指揮者という役職が好きなようだ。

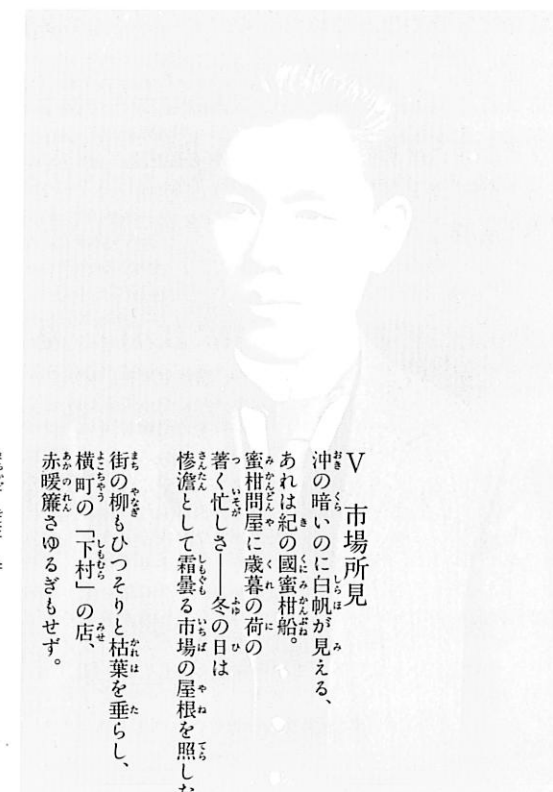


I 兩國
船の橋の下へかかりや
大船は橋を倒すよ、
やあれそれ船頭が懸聲をするよ。
五月五日のしつとりと
肌を冷き河の風、
四ツ目から来る早船の暖かな船拍子や、
牡丹を染めた絆の蝶が波にもよる。

II こほろぎ
こほろこほろと鳴く蟲の
秋の夜のさびしさよ。
日ごろわすれし愁さへ
思ひ出さるはかなさに
袋戸棚かきさがし、
箱の奥はらひ落して、
掉もつて見たれども、
あはれ思へば、隣の人もさくやらむ。
つたなき音は立てじとて、その儘におく。
月はいよいよ近えわたり
悲みいとど加はんぬ。
書はかくれて夜は鳴く
蟋蟀の蟲のあはれさよ、
しばしとぎれてまた低く
こほろこほろと夜もすがら。

III 柑子
鶯の群はゆるやかに
一つ二つと翔りぬ。
海に向へる小丘には
圓き柑子が輝きぬ。
われはひそかに忍びより、
たわわの枝の赤き實を
一つ二つとかぞへしに、
兎のごとき少女来て、
一つはとまれ、二つとは
やらじと呼びて逃げ去んぬ。
おどろき見れば夢なりき。
鶯の群はゆるやかに
一つ二つと翔りぬ。

IV 雪中の葬列
Dian...born...laar...don.
Dian...born...laar, r...
鐘の音がする。雪の降る日。
雪はちらちらと降ってはつる。
中をまっ黒な一列の人力車。
そのあとに鐘が鳴る……
Dian...born...laar, r...
銀色とあの寂しい
薄紅と、蓮の花……ゆられながら運ばれてゆく、
放鳥籠の鳥と。
今鉄橋の上に進んだ。都會の真中の……。
華やかな叫びも怒りもさびれた雪の日の都會の……。
黒い無言の列がひつそりと、ひつそりと……
雪は降る。雪は降る。
雪は降る。雪は降る。
Dian...born...laar, r...
Dian...born...laar, r...
Dian...born...laar, r...



V 市場所見
沖の暗いのに白帆が見える、
あれは紀の國蜜柑船。
蜜柑問屋に歳暮の荷の
著く忙しさ。冬の日には
惨澹として霜曇る市場の屋根を照したり。
街の柳もひつそりと枯葉を垂らし、
横町の「下村」の店、
赤暖簾さゆるきもせず。
街角に男は立てり。
手を舉げて指を動かして
「七番、中一あり」と呼びたれば
兜町、現物店の門口に
丁稚また「中一あり」と傳へたり。
海運橋より眺むれば
雲にかくれし青き日は
陰惨として水底に重く沈みて聲もなし。
時しもあれや蜜柑船、
橋の下より罷りいづ。
そを見てあれば、すずろにも
昔の唄の思ひ出づ。
あれは紀の國蜜柑船。



シューベルト 男声合唱曲集

19世紀初頭、ゲルマン民族の国々には、多種多様な社会階層を音楽に参与させようとする欲求があり、それに符号する小さな合唱グループ『リーダー・ターフェル(歌の食卓)』が形成されていた。それまで宮廷や寺院などに閉じ込められていた合唱音楽を一般社会に開放しようと、大衆の中から興った合唱運動である。

シューベルトが31年の生涯を送ったオーストリアのウィーンにおいても、この『リーダー・ターフェル』は数多く結成され、警察の圧政に対する市民のレジスタンスの拠点にもなっていた。当然その運動に中心となるレパートリーが必要だったのだが、そういう価値のある男声合唱の作品は、当時多くなかったのである。

そこへ登場したのがシューベルトの男声合唱曲である。彼の曲はオーストリアの『リーダー・ターフェル』の中心レパートリーとなったのであり、つまりシューベルトが自分の音楽を一般大衆に開放したということである。この意味でシューベルトの合唱曲(とくに男声合唱)に於ける貢献が、如何に大きく、また彼の名を不朽のものにしたということが分ると言えるだろう。

シューベルトの合唱作品は、上に述べた『リーダー・ターフェル』に代表される、ドイツロマン派の合唱運動の先駆的存在になるのだが、彼自身は古典派最後の音楽家とされている。この微妙な歴史的な位置を端的に示す1つの観点は、彼がベートーヴェンより27歳も若く、しかも1年しか長く生きなかったと言う悲劇的な事実だろう。シューベルトがあと数年でも長く生きていたなら、もっと多くの名曲が生まれていたのは確実であり、「未完成」と呼ばれる交響曲はなかっただろう。

ところでシューベルトという人物は友人や知り合いに対しては愛想が良く、見知らぬ人に対しては、臆病のあまり敬意を失する言動があったそうである。甲南グリーもこのような点(内輪で盛り上がる、女子大とのコンパでは、照れ隠し?のために暴れる)ではよく似ているのでは。さておき、そんなシューベルトがこんな美しい曲を作ったのだから、野暮な甲南グリーも、美しい歌を客席に届けられるはず…。そう信じて、今宵のステージにのぞみたい。



指揮者 江口 寿

今宵、精鋭を従え、寿がフェスティバルホールにやってきました。他の六連の指揮者同様、背が少し低いですが、甲南sを指導して、早くも四度目のコンサートになりました。さて、彼は女性に注げばよい情熱を全てクラブに注ぐような人と思われそうですがそうではありません、女性に注がないからクラブに注いでいるのです。

その上何人もの部員の下宿先におしかけて、なかなか家に帰りません。部員の所だけならいざ知らず、他団の指揮者の所にもお世話になっているそうです。しかも通い詰めてゲームを解いてしまう程です。そんな寿も、練習となると鬼神のごとく力を振り、勢い余ってクルクル飛ばす程です。さて今宵、寿と今岡先生の剛腕の織り成すシューベルトの世界を堪能してください。

伴奏者 今岡 淑子

相愛大学音楽学部ピアノ専攻卒業。同大学音楽学部ピアノ研究生終了。片岡みどり氏に師事。ザルツブルグ、シオン(スイス)各地に於けるハンス・ライグラー、フリードリッヒ・W・シュスマ各氏のマスタークラスを受講。リサイタル、大阪フィルハーモニー交響楽団などと協演のほか、スイス・ロマン管弦楽団のトップ・プレーヤーらとの室内楽など室内楽奏者、伴奏者としても多数の演奏会、放送に出演。甲南大学グリークラブにピアノ伴奏も1990年より務めている。1988年第7回ソレイユ新人オーディション第1位入賞、「音楽現代」新人賞受賞。1990年第2回宝塚音楽コンクールピアノ部門第3位入賞。現在、相愛大学音楽学部、武庫川女子大学音楽学部各講師。



I. Die nacht

Wie schön bist du,
freundliche Stille, himmlische Ruh!
Sehet, wie die klaren Sterne
wandeln in des Himmels Auen
und auf uns herniederschauen,
schweigend, schweigend aus der Ferne.

Wie schön bist du,
freundliche Stille, himmlische Ruh!
Schweigend naht des Lenzes Milde
sich der Erde weichem Schoß,
kränzt den Silberquell mit Moos,
und mit Blumen die Gefilde.

II. Der Gondelfahrer

Es tanzen Mond und Sterne
den flücht'gen Geisterreich'n
wer wird von Erden Sorgen
befangen immer sein?
Du kannst in Mondesstrahlen
nun meine Barke wallen,
und aller Schranken los
wiegt dich des Meeres Schoß.
Vom Markusturm tönte
der Spruch der Mitternacht:
sie schlummern friedlich alle
und nur der Schiffer wacht.

III. Widerspruch

Wenn ich durch Busch und Zweig
brech' auf beschränktem Steig,
wird mir so weit, so frei
will mir das Herz entzwei.

Rings dann im Waldeshaus
rücken die Wänd' hinaus,
wölbt sich das Laubgemach
hoch mir zum Schwindeldach.

weht sich der Blätter schier
jedes zur Schwinge mir,
daß sich mein Herz so weit
sehnt nach Unendlichkeit.

Doch wenn in weiten Raum
hoch am Gebirgessaum
über dem Tal ich steh',
nieder zum Tale seh'.

ach, wie beschränkt, wie eng
wird mir's im Luftgedräng,
rings auf mein Haupt so schwer
nicken die Wolken her,

niederzustürzen droht
mir das Abendrot,
und in ein Kämmerlein
sehnt sich mein Herz hinein.

(夜)

何と汝の美しいことよ
親しい静けさ、聖なる安らぎ!
見よ、澄みきった星たちが
天の河原を彷徨い
じっと黙って遠くから
私たちを見下ろしているのを

何と汝の美しいことよ
親しい静けさ、聖なる安らぎ!
大地のふところの内には
沈黙のうちに穏やかな春が近付いている
野原は銀の泉に
苔と花の冠をかぶせるのだ

(ゴンドラに乗る人)

月と星が
はかない雲の世界で踊っている
地上の苦しみは
始終囚われていない者などあるだろうか?
今、君は月光の中を
私の小舟で漂っている
そして何の妨げもなく
海の底へと揺られていく
サンマルコ塔から
真夜中の鐘が鳴り響く
みな、安らぎ眠れ
ただ船頭のみ起きたれ、と

(矛盾)

やぶをつき意地悪な小道を
枝をはらって進むとき
私はゆったりとした自由な気分になり
心が解き放たれる

森という家においては
壁は遠方へ押しやられ
木の葉の部屋が毎朝のしそうな程高い
アーチをかたどっている

木の葉は私に
空想の翼を織り成す
私の心ははるか遠くへさまよい
終わりのないものに憧れる

しかし広い空間のなかでは
私は高い崖の淵にたち
谷底深くを見下ろしている

ああ、何と偏狭に、何と狭く
空間は私を締めつけることか
私の上空にあっては
雲ですら身をかかめることは容易でない

今や夕焼けが私の前に
ひざまづかんとしている
そして小さな部屋のなかで
私の心は内なるものに憧れる

IV. Trinklied

1. Brüder, unser Erdenwallen
ist ein ew'ges Steigen, Fallen,
bald hinauf und bald hinab.
In dem drängenden Gewühle
gibt's der Gruben gar so viele,
und die letzte ist das Grab.
Darum, Brüder, schenket ein,
muß es schon gesunken sein,
sinken wir berauscht vom Wein.

2. Einmal muß der mensch im Leben
sich dem blinden Gott ergeben,
's fährt ihm Amor durch den Sinn;
und den muß erschrecklich büßen,
seufzend sinkt er zu den Füßen
der erwählten Königin.
Laßt euch nicht mit Weibern ein,
muß es schon gesunken sein,
sinken wir berauscht vom Wein!

V. Gott meine Zuversicht.

— PSALM 23 —
Gott ist mein Hlirt,
mir wird nichts mangeln,
er leitet mich an stillen Bächen,
er lagert mich auf grüner Weide,
er labt mein schmachendes Gemüt,
er führt mich auf gerechtem Steige
zu seines Names Ruhm.
Und wall' ich auch im Todesschattental,
so wall' ich ohne Furcht,
denn du beschüttest mich.
Dein Stab und deine Stütze
sind mir immerdar mein Trost;
du richtest mir ein Freudenmahl,
du salbst mein Haupt mit Öle
und schenkst mir volle Becher ein.
Mir folget Heil und Seligkeit
in diesem Leben nach,
einst ruh' ich ew'ge Zeit
dort in des Ew'gen Reich,
mir folget Heil und Seligkeit
in diesem Lben nach,
einst ruh' ich ew'ge Zeit
dort in des Ew'gen Haus.

(酒唄)

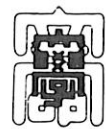
兄弟よ、浮き世の暮らしてのは
まった(坂道)まで落し穴だらけだ
上がったかと思えばすぐ下がり
押し合いへし合いの混雑の中に
何となく
落し穴のある事か
だから兄弟よ注いでくれ
もう落ちるだけ落ちてるんだ
ワインの海に酔って沈みこんじまおう

人はその生涯の内に一度は必ず
*1 盲目の神にやつつけられなきゃならない
恋ってのは不意にやってきて
人をこっぴどい目に合わせる
奴はため息をついて
選ばれた妃の足元にくずおれる
女に深入りするんじゃないよ、お前さん方
もう落ちるだけ落ちてるんだ
ワインの海に酔って沈みこんじまおう
*1 恋の神、キューピットが盲目であること
を知らない人は…まさかいないでしょうね?

(主よ、わたしの信ずるもの)

— 詩篇23 —
主は羊飼ひ、
わたしには何も欠ける事がない
主はわたしを青草の草原に休ませ
憩いの水のほとけに酔い
魂を生き返らせてくださる
主は御名にふさわしく
わたしを正しい道に導かれる
死の陰の谷を行くとき
わたしは災いを恐れない
あなたがわたしと共にいてくださる
あなたの鞭、あなたの杖
それがわたしを力づける
わたしを苦しめる者を前にしても
あなたはわたしに食卓を整えてくださる
わたしの頭に香油を注ぎ
わたしの杯を溢れさせてくれる
命のある限り
恵と慈しみは、いつもわたしを導く
主の家にわたしは帰り
生涯、そこにどきどきとあろう

I~IV (関 麻由美、訳)
V (日本聖書協会、新共同訳「聖書」より抜粋。)



—男声合唱とピアノのための—

IN TERRA PAX

地に平和を

午後の3時だ。寢床から起き上がり、あくびをしながら自分の体ほどもあるキーボードをかついで夕暮れのキャンパスを練習会場にむかって歩く。おっ!!ゼミの友達だ。来週のゼミ、サボるから代返してくれといって漱石の似顔絵を手渡す。音程が違う、と言って鍵盤を乱暴に叩き、リズムがおかしいと指揮棒をへし折り、お前たちに音楽性はないのか、と怒鳴りつける。「もうやめたい。」と相談してくる後輩をなだめてメシをおごる。電話だ。「もうあなたにはついていけない」と女に泣かれ、気晴らしに別の女のところに電話する。金がない!悪友!に「さっさと1万返せ!」と催促しながらクレジット・カードでその場をしのぐ。

ああ、今夜もコンビニでバイトだ…。——ドライな若者。…ひょっとして俺のことがかな?最近ちょっとだけそんな風に思ったりする。もちろん、戦争なんて知らない。でも、それ以上に平和って何かを理解ってないんじゃないかな。

戦争——その峻厳な事実としての歴史——は遠い昔のものがたりとして、現代とは隔絶された過去という空間に封じ込められている。

かつてはみずみずしかった『平和』っていうことばはいつのまにか抽象化し、空虚化している…。一体 俺たちや どうすりゃいいんだ?

そうだ! 空を見よう。太陽の光りを頬いっぱいうけとめて、新しい風に向かって目を開こう。そうだ!! 耳をすまそう。地の底からひびく不思議なリズムが聞こえてくるだろう。地球の鼓動だ。大地のリズムだ。宇宙のメロディーだ。

そうだ! もっと耳をすまそう。不条理に満ちた現代と過去がオーバー・ラップして多くのさまよえる魂が現代によび醒まされている。 Shhhhhhhhhhhii……。 もっともっと耳をすまそう。

ほら、聴えてくるだろう。俺たちの静かな祈りが……。



指揮者 川本 光哉

札幌手稲高校から合唱推薦によって立命館大学経済学部へ入学。自前の音楽センスを活かしてメンネルコールの技術面を指導している。彼は、その自信に満ちた指導ぶり、団員の信頼を集めている。明立がおわるまでは就職活動は全くしてなく、彼は就職を棒にふってまで演奏会に命を賭けるのかと思いきや、わずか一週間で財閥系商社から内定をもらってしまった。しかし、練習のために会社の拘束をブッチしている、内定取り消しの日は近いであろう。今年に入って、彼にまつわるエピソードが多いため、一部しかご紹介できませんが、定演パンフの彼の事故紹介をご覧下さい。

さて、今宵は『IN TERRA PAX』—地に平和を—の男声バージョンでお送りします。身体とはマッチしない長い棒と、彼のO脚から生まれるパワーにより、今までとは一味違ったメンネルコールを感じて頂けたら幸いです。

ピアノ伴奏 上野 順子

京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専修卒業、音楽学部賞受賞。卒業演奏会・読売新人演奏会等に出演。

ピアノを荒憲一、横井和子、園田高弘の各氏に師事。大阪にてリサイタル開催。

大阪文化祭奨励賞受賞、NHK洋楽オーディション合格。



知った
太郎は
戦争を知らない
その恐ろしさを知らない
むごたらしさを知らない
だから戦争へのくしみも知らない
それは父や祖父の知る
遠いむかしものがたり
そんな太郎が戦争を知った
一枚の写真を見て

少年は
はだしのまま
ぼろをまとい
どろにまみれ
うてから血をしたらせ
父をうばわれ
母をころされ
家をやかれ
ひとり残され
ベトナムの上に立つ
目には涙ではなく怒りがあふれ
口もとから聞こえるのは無言のさけび

父をかえせ
母をかえせ
家をかえせ
土をかえせ
祖国をかえせ
おまえはおまえの国へかえれ!
しゅん間!
太郎はまぼろしを見た
火をふく銃
もんどりうって
ベトナムの上にたおれる少年
よせ!
やめろ!

その時
太郎は知った
戦争を

真夏の太陽にきらめいて
南へ飛ぶジェット機
あつ!
太郎は気づいた
ベトナムの空は日本の空に
つづいているんだ

OH MY SOLDIER
空よ
はてしない空よ
風のなかから聞こえてくる
あれは 誰の声
誰も知らない 若者の声

ゴメンナサイ
オカアサン
ホシイ
イノチガ
モウヒツ
イキタイ
センソウノ
ナイクニデ
モウイチド
コノイノチデ

OH MY SOLDIER
かえらぬ生命
OH MY SOLDIER
言葉だけがかわる

空よ
かわらない空よ
風のなかから 言葉がかわる
OH MY SOLDIER.かえらぬ生命
OH MY SOLDIER.……
OH MY SOLDIER.……

ゴメンナサイ オカアサン
モウヒツ イノチガホシイ

花をさがす少女
花をさがす少女
あの花は
どこへいったの

やさしかった時はやぶれ
ここは戦場 修羅のちまた
泥にまみれた 少女ひとり
さまよい歩く

田にかがやいた 緑の大樹
まぶしくさいた ブーゲンビレア
あの花を さがして

ここは戦場 修羅のちまた
木もなく 草もなく 花もない
かなしみこらえた 少女ひとり
さまよい歩く

一瞬
飛び散る
少女は
いない

どこから生まれたのか
白いチョウが飛ぶ
ひらひらと はさはさと
いのちをさらす白いチョウよ
何をさがして さまようのか

花をさがす少女
あの花は
どこへいったの

ほうけた母の子守歌
ねんねこねなさい
はよねなさい
木枯らし吹けば雪がくる
まっかに燃えた雪がくる

ねんねこねなさい
はよねなさい
雪が燃えたら鬼がくる
いのち連れてく鬼がくる

ヒュルリー
ヒュルリー
木枯らし吹けば雪がくる
ほうけた母の子守歌

ねんねこねなさい
はよねなさい
木枯らし吹けば雪がくる
雪が燃えたら鬼がくる

ヒュルリー
ヒュルリー
きえた子どもにくり返す
ほうけた母の子守歌

ねんねこねなさい
はよねなさい

IN TERRA PAX 地に平和を
IN TERRA PAX
地球に愛を
ぼくらに夢を
さあ 野辺に出よう
ならんで腹ばいになり
もえてたばかりの草にむせて
大地に胸をあてるのだ

とくと
見えない地の底からひびく
不思議なリズム
地球の鼓動だ
この大地のリズムにあわせ
人は生きる
鳥も木も草も

IN TERRA PAX

地球に愛を
僕らに夢を
さあ 空を見よう
陽の光をほほにうけとめて
新しい風に向い
目を開くのだ

さわさわと
はてしない青い世界をただよう
やさしいメロディ
地球の息吹だ
この宇宙のメロディにつつまれ
人は生きる
鳥も木も草も

コダーイ 男声合唱曲集

スティーン・スピルバーグの「未知との遭遇」の中で、レ・ミ・ド・ド・ソの5音々階が未知の飛行物体との交信に使われる。これを手話で表し、映画のエンディングでも効果的に使われているのが、コダーイの手話法である。コダーイは耳の不自由な子供に音楽を教えるために、この手話法を考案した。ハンガリーの音楽教育はコダーイ・システムと呼ばれる方式に基づいている。これが現在の音楽先進国ハンガリーの地位を確固たるものにしてきたと言える。

コダーイ・ゾルターン (Kodály Zoltán/1882.12.16-1967.3.6) は優れた作曲家であると同時に優れた音楽教育家であり、その意味で真の20世紀音楽の創始者である。晩年には国際音楽教育者会議 (ISME) の会長でもあったコダーイが、音楽教育においてとりわけ重視しているのが「歌うこと」である。「楽器なしで歌えることは、音楽能力の真に深いところまで影響を及ぼす教則本である。従って楽器奏者を育てる前に、まずは音楽家を育てなくてはならない。」コダーイのこの主張は、まず第1に教育的な必要に供される、と自ら呼んだ、1500にも及ぶ合唱曲作品によく表れている。どの作品も、古典的な和声の法則を越えた独創的な語法によって、各合唱形態の特性とマジヤールの要素とを最大限に引き出した名曲である。

コダーイがブダペスト音楽院で知り合ったバルトークと共に、ハンガリー民謡の採集・採譜の体系的研究を始めた1900年代初頭、ハンガリーはオーストリア・ハンガリー二重帝国の支配下にあった。40年来続いていたこの帝国における政治的・文化的抑圧のもとで、ハンガリー民謡は民族一体化のよりどころでもあった。二重帝国は第一次大戦によって崩壊したが、第二次大戦を経て現在もなお、東欧・ロシアでは激しい民族紛争が展開されている。歴史的に民族離散の危機にさらされた経験のない日本人にとって、そのような強烈な民族意識を理解することは難しい。それでもコダーイの合唱曲に感銘を受ける、と言うよりむしろ共感できるのは、ハンガリーの音楽が東洋的な色彩を強く持っているという理由からばかりではなく、もっと根源的な、「歌うこと」の持つ原始的なエネルギーに突き動かされるのではないだろうか。それこそが、生命のエネルギーではないかと思う。

歌を歌っていることは、生きていることの証しなのである。



指揮者 丸山 武彦

1971年6月16日、神戸市御影生まれ。O型。双子座。合唱の名門神戸高校を経て関西学院大学法学部に入學。高校時代から合唱にのめり込み、3年時にはパートリーダーを務める。大学入学と同時にグリークラブに入部した彼は、その卓越した音楽センスを買われ学生指揮者に。第61回関西学院グリークラブリサイタルにおいて「U Boj」を振り華々しいデビューを果たす。現在、指揮法を北村協一氏、広瀬康夫氏の各氏に師事。

普段はあまり多くを語らない彼から、「オレが楽しみにしてたんは、4年になったときの六連やったんや」と貴重なコメントを頂いた。そんな彼は、「男声合唱をやるなら一度はコダーイを」という個人的なポリシーでコダーイ男声合唱曲集を選ぶ。客席から指揮しているときの顔を見れないのは残念ですが、(見たい人は、61回リサイタルのビデオを見てね)彼の創り出すコダーイワールドに会場の皆さんを招待することだろう。

1. HUSZT
Bús dűlédékéidén.
Husznak romvára, mégállék.
Csönd vala, félleg alól
Szállt fel az éjeli hold.
Szél kele most,
mint sír sír szele kél s a csamok elontott
oszlop közl leégő rémalak inte felém és mond
Honfí, mit ér epedő kebel e romok omán?
Régi kor árnya felé visszazántréngni mit ér?
Meszse jövődével komolyan vess össze jelen kort,
Hass, alkoss, gyarapíts, a haza fényre dertül!

2. Ének Szent István Királyhoz
Ah hol vagy magyarok üdöklő csillaga?
Ki voltál valaha országunk istápa.
Hol vagy István király? Tégéd magyar kívánl
Gyászos öltözetben té előtled sírván.
Réd emlékézén csordulnak könnyei,
Bóval hamatoznak szomorú mezei.
Lankadnak szüntelen vitézlo karjai,
Ném színek iszonyú sírástól szénei.
Előtted könyörgünk bús magyar fiad,
Hozzád fohászodunk árva maradékid.
Nézz már István király bánkodó hazádra,
Fordítsd szémeidet árva országodra.

3. MULATÓ GAJD
Hajda, hopp, hajda, Éljetek vigan mostan mindnyájan,
Szüretünk meglett, jó borunk termétt.
Ki ad jó erőt táncra gerjesztöt,
Igyunk mert ez bor bizony, hogy jó bor,
jámbor az gazda, megötölt sokszor, jámbor az gazda.
Gazda adj innom! Bizony kéyánom.
Aj, hogy nem adnak, hynya torkomnak!
Üres erszényém. Mert nincsen pénzém. Édesb az ital ily malozsánál Méhsér
itahál, jobb az kámfortnál. Erősb az ital tarcali bomál.
Pecsenye, cipő éhözönek-vaio Az ki borivó, annak sült rigó.
Az Ki bánkodik nem ide valo. Hajda, hopp, hajdénánom, hajda!

4. FÖLSZÁLLOTT A PÁVA
"Fölszállott a páva vármegye házára
Sok szegény legénynek szabadulására
Kényes, büszke pávák, Napszedítő tollak,
Hírel hirdették: másképpen lesz holnap!
Másképpen lesz holnap, másképpen lesz végre.
Új arcok, új szemek kacagnak az égre.
Új szelek nyögtek az ő magyar fákat,
Várjuk már, várjuk az új magyar csodákat!
Vagy bolondok vagyunk, s elvesztünk egy szálit.
Vagy ez a mi hitünk valóságra válik.
Vagy léssz új értelmük a magyar igéknek.
Vagy mard régben a bús magyar élet.
Vagy láng csap az ódon vad vármegyházra,
Vagy itt ül a lelünk tovább léigzva.
Fölszállott apáva várégye házára
A szegény raboknak szabadulására."

5. KARÁDI NÓTÁK
Haj! Kocsárosné, gyögyviolám!
Köszöntsön egy pohár bort rám!
De vizet né töltön bele,
Mert a kedvem tűnik töle.
Kocsárosné gyögyviolám!
Vané hát egy hízó lúdja?
Vagyon Andris, de nincs készen.
Mindjárt megcsütöm egészben.
Süsse még hát hamarosan
Hadd lakhassunk jól lúdhússal!
Égyünk, igyunk, úgy mulassunk,
Mivel pandrókkal vagyunk.

5. カラーディ地方の歌
(居酒屋)のおかみさん 私の大事な人
おいさつかわり一杯ワインをおくれ
でもの中に水をまぜないでくれ
気分が悪いからね
おかみさん 私の大事な人
鶏を食べないんだが
かわいいアンドリシュ まだできてないよ
すぐに焼いてあげるからね
もうすぐ食べられるよ
ゆっくりお食べなさい
食べよう飲もう おおきに楽しもう
みんな警官仲間じゃないか
(↑ハンガリー独特の兵隊)
Kormos Pistát Simontornán megfogták,
Mingyár az urak eljébe hajtották.
Mind együtt volt viceispán, alispán,
Kérdik tőle: Hány lovat loptál, István?
"Loptam lovat, ötöt, hatot, hetet is.
Mésim jutott az uraknak csak egyig is!
Loptam volna ötven, hatvan, hetven is.
Jutott volna az uraknak csak egyig is.
Kormos Pistát kísérik a börtönbe.
Szereteje az ablakon át nézte.
Né nézd, né nézd a gyászos életemet.
Mind térted szenvedém most ezeket!"

彼はすぐに偉いさんの前に連れて行かれた
その中には知事や領主もいた
彼に尋ねた お前はついで何頭の馬を 盗んだんだ イシュヴァンよ
馬を盗みました 五頭も六頭も七頭も
それでも旦那方にはちっとも痛くないでしょう
できれば五十頭でも六十頭でも七十頭でも盗みたかったんです
それでも旦那方にはどうってことないでしょう
コルモシュ・ビシュタートは牢屋に連れて行かれた
それを彼の恋人が 窓から眺めていた
見なくてくれ 見なくてくれ僕の情けない姿を
僕はみんなお前のために我慢しているんだ

1. 廃墟にて
悲しくも 崩れ去りし
ファースの城跡に 我佇む
静けさ 周囲に満ち
夜の月 雲の涯から昇らむ
今や風はすすり泣き
会堂の柱間に亡者の影影い出て
彼方に手招きかく言う
「祖国を愛する者よ かく荒れにし肆に何をば望む
過ぎし日々を思うのに、いかにかりの甲斐あらん
未だ見ぬ先へと 今から備えを始めるべし
行わん、創らん、力めて、かくて、祖国に灯は点るのだ。」

ああ マジヤール人の輝く星 あなたはどこに
あなたはかつて わたしたちの国の聖人でした
イシュヴァン王よ あなたはどこに マジヤールはあなたを望んでいます
あなたの前で喪服を着て 泣きながら
あなたのことを思い 涙がふれます
野原には哀しみの露が満ちています
勇者の腕も萎えて垂れ下がり
恐ろしさに 眼から涙が止まりません
あなたの前でマジヤールの子等は 哀しみに溢れて語り願っています
取り残されたみなし児達が あなたに向けて祈っています
イシュヴァン王よ 哀しみの祖国をこらへください
みなし児の祖国に目をお向けください

3. 楽しきかな 飲み仲間
さあみんな楽しくやろう
いい葡萄酒がれて いいワインができた
力が溢れる はてに踊ろう
さあ飲もう なんとっていい酒だから
酒場の主人はさっふくよくて 何杯でもついてくれるぞ
「大将 酒をくれ」
「おい こっちはなんてくれんだ」
財布は空っぽ 銭はなし 酒は強くて たまらない
心底腹の空いた連中にや ローストビーフとパンだ 飲んでえにや 鶏の丸焼きだ
しいた奴あ こっちは来るな

孔雀が飛んで行った 町の牢獄の上に
多くの憐れな若者を 解放するために
美しい孔雀 日に照られ目くらむような羽毛
皆に知らせよ 明日はこんなふうにはならないだろうと
明日はこんなふうにはならないだろう 最後はこんなふうには
新しい開い 新しい眼が 空に向かって笑う
新しい風がざわつかせる 古いハンガリーの木々を
待とう 新しいハンガリーの奇跡を
我々が愚かであって 一本の糸までも失って玉砕するか
この我々の信仰が 現実のものとなるか
新しい意味が盛られるのか ハンガリーの言葉に
元のまま残るか 悲しいハンガリーの生活が
熔かす破るか 古びた荒れ果てた牢獄を
魂が これからも王座を受けたまていつのか
孔雀が飛んで行った 町の牢獄の上に
かわいそうな奴隷達を 解放するために

Kérem alázatosan az urakat,
Engedjék el ezt a csekély bajomat!
Hajtok bárányt, hajtok pörögöt az urnak,
Csak engemet bocsásson el szabadnak!
Kérem alázatosan az urakat,
Engedjék el ezt a csekély bajomat!
Hajtok lovat harminc hámat feketét,
Kivel felszántom az urak mezejét.
Kérem alázatosan az urakat,
Engedjék el ezt a csekély bajomat!
Hajtok olyan daruszörtyű paripát,
Hét vármegye nem találja fél párját.
Mégisnem a kanászt cifra járásáról,

Üzött fűzött bocsoráról tarisznyaszájáról
Hüccs ki disznó a berekből, csak a füle
látszik.
Kanászbajtár bokor alatt menyecskebél
játszik.
1. Borsót vittem a malombá
2. Fölöntöttem a garatra
Azt gondoltam tiszta búza
Dűj el, dűj el dűj.
Dumhám alá jól elbűj!
Még is mondtam a mónámak,
Hogy el né csacsogja másnak.
De a mónár azt fogadta,
Az anyjának elcsacsogta.

私は旦那方にうやうやしくお願いいたします
こんなつまらない患者を許して下さい
旦那方のために 山羊を追って働きます
私は旦那方にうやうやしくお願いいたします
こんなつまらない患者を許して下さい
三十三頭の黒い馬を追って働きます
その馬でもって旦那の畑を耕します
私は旦那方にうやうやしくお願いいたします
こんなつまらない患者を許して下さい
灰色の馬の世話もします
七つの県にいないような立派な馬です
豚飼いはその風変わりな歩き方でそれと
(豚飼いわん)わかる
ステッチのついたサンダルとザックの紐でわかる
豚は茂みに隠れて耳だけ見えている
豚飼いは茂みの中で小娘と何かいことをしている
1. 水車に豆を持って行く
2. 豆粒が多過ぎた
私はそれか単純な小娘だと思った
隠れろ 隠れろ
僕の服の下にうま隠れろ
(水車番が豆を持って来るから)
私は水車番にこう言った
他の人には絶対喋らないでくれ
でも誰かが話してしまった
このことを娘の母親に

TANNHÄUSER より



作曲者 Richard Wagner

1813年ライプツィヒに生まれた彼は、9歳でピアノを始め、11歳からギリシア文学やシェイクスピアを読み始め、13歳で創作をこころみる早熟な少年だった。15歳の時ベートーベンの音楽を初めて聴き、作曲家になることを決めた彼は、ライプツィヒ大学に入学し、そこで哲学と音楽を学ぶと同時にワインリヒに師事し作曲を学んだ。その後、遍歴時代を迎え各地に指揮者の職を求めたが失職、借金を負ったまま逃亡しパリへと向かった。それでも生活は苦しく負債のために刑務所に入ったこともあったが『リエンチ』や『さまよえるオランダ人』を完成させた。そして1842年ドレスデンで『リエンチ』が上演されることになり、ようやく作曲家としての名声をえ、同時にザクセン宮廷劇場の楽長となり生活も安定した。しかし、1845年『タンホイザー』を作曲した後、ドレスデン革命に参加していた彼は革命が失敗に終わりスイスに亡命することになった。その後、1862年ドイツ追放を解かれ、ルートヴィッヒ2世に招かれてミュンヘンを訪れた。そしてルートヴィッヒ2世の援助によって彼の理想であった祝祭劇場をバイロイトに建設し、そこで『ニーベルングの指輪』を初演した。1888年彼は心臓障害のため亡くなったが、今でもここバイロイトで、毎年全世界の注目を集め彼の楽劇が上演されている。

リヒャルト・ワーグナーは天才です!

なにをいままさらそんなこと・・・そう思っているあなた・・・ちょっと待って下さい。

僕の言っている天才とは、ワーグナーが人類の歴史の中でも最もドラマチックに生きた一人としての天才なのです。

ここでワーグナーの伝記を書くつもりはありませんが、ちょっと乱暴にいまの時代にこのワーグナーをあてはめてみると...

『日本赤軍のメンバーとして北朝鮮に亡命していた若い作曲家の作品を、天皇が溺愛してこの作曲家を文部大臣に任命する。この作曲家は天皇に保護されていることを良いことに国家予算の5分の1を使い富士山麓に自分の作品だけを上演する劇場を作る。そして人類史上最長の4夜16時間にもわたるオペラを書き上げ、終焉の地としてベニスを選ぶ』

いかがですか? この奇想天外なお話しを実際に生きた作曲家がリヒャルト・ワーグナーなのです。

さあ、21世紀の扉を開けるこの舞台上の若者と共に、とっておきのワーグナー酒を召し上がれ...ちょっと毒が入っていますが...

指揮者

佐々木 修

合同指揮者 佐々木 修

1955年青森県弘前市生まれ。武蔵野音大卒業後オーストリア政府奨学生としてザルツブルグ・モーツァルテウム音大指揮科に学びヘルベルト・フォン・カラヤン、ゲルハルト・ヴィンベルガー両氏に師事。79年ベルリンに於けるカラヤン国際指揮者コンクール第4位入賞。81年同大を最優秀卒業。81年～84年モーツァルテウム音大指揮科講師・同大オーケストラ常任指揮者として多数のオペラ、コンサートを指揮。またドイツ、オーストリアのユースオーケストラも指揮。82年東洋人の指揮者として初めて伝統あるザルツブルグ国際モーツァルト週間にデビュー、絶賛を博す。このコンサートに対して国際モーツァルテウム財団よりパウムガルトウナーメダルを授与。84年ベルリン放送響を指揮しリアス新人演奏会に出演。



84年帰国後、新日フィル、読響、群響、京響、大阪シンフォニカー、大阪センチュリー響などを指揮する一方関西二期会、藤沢市民オペラなどのスタッフとしてオペラ製作に携わる。また各地のアマチュアのオーケストラやコーラスも積極的に指揮。

さらに88年～90年NHK FMシンフォニーコンサートの解説者。90年～92年FM802フロムサントリーホールのパークソナリティ&構成、さらに現在はテレビ東京「タモリの音楽は世界だ!」の音楽監修としてマスコミでも活躍。マルチな才能で今後が期待される。

たんぽいざー物語

東京のWグリークラブのT君(注1)は昨年彼女V(注2)が出来てからすっかり変わり、それまでの文武両立の好青年から一転して、髭ぼうぼうで、クラブはおろか学校も休学し、彼女のアパートに転がり込み愛欲に溺れた日々を送っていました。

その彼が久しぶりにみんなの前に顔を見せたのが、S女子大との合コン(注3)でした。

宴もたけなわとなった頃、学生達が愛についてそれぞれの意見を主張しはじめました。純愛こそすべてと唱える皆の前で、T君はお酒の勢いもありつい興奮して、言っではならない言葉を口にしてしまいました。『愛とは○○○○だ!』そこに居合わせた女の子は非難を上げ耳をふさぎ、彼の仲間達も一斉に非難しました。

事の重大性に気がついたT君も後悔の気持ちで皆に頭を垂れました。(注4)

グリークラブの仲間がT君に言った、唯一心を癒し罪を償う道とは、11月3日大阪フェスティバルホールでの関西六連のタンホイザーを聞きに行くこと、それも東京～大阪を歩いての巡礼の旅(注5)でした...

それから1年後、大阪からの巡礼の帰りの人々、肉体は疲れ果てながらも罪を償い幸福な表情の巡礼の人々(注6)の中にT君の顔はありませんでした。しかしその人々の中から必死にT君を探す一人の乙女がいます、E嬢(注7)です。

有楽町のガード下で乞食同然の姿のT君を友人のW君が見つけたのは、それからしばらく経ったある日のことです。T君が語るには...

『確かに僕は大阪に行った、そして六連のタンホイザーを聞いた...しかし指揮者のS先生(注8)は許してはくれなかった。僕は絶望した、もう一度愛人Vとの生活に戻るんだ!』W君は必死に説得しました。

『お前の気持ちはよくわかる。しかしお前のことを自分を犠牲にしてまで思い続けている女がいることを知っているのか?それはEさんだ!!』

彼女の名前をきいたT君は茫然と立ちすくみ、次の瞬間彼の心臓は永遠のG.P.(注9)を迎えました。

T君の変容する魂を迎えるように関西六連の歌声が響きます。(注10)

注1: タンホイザー本人のこと。案外この舞台にも何人か居そうです。

注2: ヴェーヌス、官能と美の女神。舞台上の青年を惑わすあなた?かも知れません。

注3: 中世の歌合戦のこと。今日の第1曲目はこの入場行進です。

注4: この場面が今回のハイライト第4曲目(第2幕のフィナーレ)大変な難曲です。

注5: これからローマへの贖罪の旅に出かける巡礼者たちの合唱。これを牧童が見送ります。第2曲目

注6: ローマから帰ってきた巡礼者たちの合唱。第3曲目

注7: エリザベート、タンホイザーと清い誓いをして、自分を犠牲にしてまで彼を愛する。あら、私のことかしら?と思っている人も結構いる。

注8: ローマ法王のこと。ここでは佐々木先生、一説によるとこの曲解説も書いているという。

注9: ゲネラル・パウゼ、音楽用語で総休止。ここではT君の死を意味する。フォミラー1とは関係ない。

注10: うわさによると今日のアンコールらしい。T君が救われなかったのはこのアンコールを聞かなかったせいだという...

「TANNHÄUSER」歌詞

『大行進曲』

CHOR

Freudig begrüßen wir die edle Halle,
wo Kunst und Frieden immer nur verweilt,
wo lange noch der frohe Ruf erschalle:
Thüringens Fürsten, Landgraf Hermann, Heil!

『一幕巡礼の合唱』

(Er spielt auf der Schalmei. Man hört den Gesang der älteren Pilger, welche, von der Richtung der Wartburg herkommend,

den Bergweg rechts entlangziehen.)

GESANG DER ÄLTEREN PILGER

Zu dir wall' ich, meine Jesus Christ,
der du des Pilgers Hoffnung bist!
Gelobt sei, Jungfrau süß und rein,
der Wallfahrt wolle günstig sein!
Ach, schwer drückt mich der Sünden Last,
kann länger sie nicht mehr ertragen;
dumm will ich auch nicht Ruh'noch Rast,
und wähle gern mir Müh' und Plagen.
Am hohen Fest der Gnad' und Huld
in Demut stühn' ich meine Schuld;
gesegnet, wer im Glauben treu:
er wird erlöst durch Buß' und Reu'.
(Der Hirt, der fortwährend auf der Schalmei gespielt hat, hält ein, als der Zug der Pilger auf der Höhe ihm gegenüber ankommt.)

HIRT

(den Hut schwenkend und den Pilgern laut zurufend).
Glück auf! Glück auf nach Rom!
Betet für meine arme Seele!

TANNHÄUSER

(der in der Mitte der Bühne wie festgewurzelt gestanden, sinkt heftig erschüttert auf die Knie).
Allmächt'ger, dir sei Preis!
Großsind die Wunder deiner Gnade.
(Der Zug der Pilger biegt von hier an auf dem Bergwege bei dem Muttergottesbilde links ab und entferntsic immer weiter bon der Bühne; daß der Gesang allmählich verhallt.Der Hirt entfernt sich ebenfalls mit der Schalmeirechts von der Höhe;man hört die Herdeglocken immer entfernter.)

PILGERGESANG

Zu dir wall' ich, mein Jesus Christ,
der du des Pilgers Hoffnung bist!
Gelobt sei, Jungfrau süß und rein,
der Wallfahrt wolle günstig sein!

TANNHÄUSER

(als der Gesang der Pilger sich hier etwas verliert, singt, aufden Knien, wie in brünstiges Gebet versunken, weiter.)

Ach, schwer drückt mich der Sünden Last,
kann länger sie nicht mehr ertragen;
drum will ich auch nicht Ruh' noch Rast
und wähle gern mir Müh' und Plagen.

(Tränen ersticken seine Stimme; man hört in weiter Ferne den Pilgergesang fortsetzen bis zum letzten Verhallen, während sich aus dem tiefsten Hintergrunde, wie von Eisenach herkommend,das Gelläute von Kirchenglocken vernehmen läßt. Als auch dieseseschweigt, hörtman von links immer näherkommende Hornrufe.)

日本語訳

合唱

喜びてわれらは貴き殿堂にあいさつを送る
ここに芸術と平和は永遠に止まれ!
喜ばしき呼び声よ、長く響け!
チューリングゲン領主たるヘルマン、ばんざい!

(彼はシャルマイを吹く。老巡礼たちの歌がきこえてくる。ワルトブルクの方向から山道を通って来る)

老いたる巡礼の歌

わがイエス・キリストよ、なんじにわれは謝れる。
なんじは巡礼の望み。
美しき聖母よ、讃えられてあれ。
巡礼行に恵みを垂れたまえ!
ああ、罪の重荷は私を押え、
ちはや堪えられぬほど。
さればこそ休息を欲せず、
喜んで辛苦を遊ぶ。
慈悲の高き祭典の日に、
私は罪を謙虚にあがなう。
信仰に忠誠なるものは恵みであり、
懺悔により救われん。
(羊飼いはずっとシャルマイを吹いていたが、向こう側の山に巡礼の行列が着く。巡礼の歌をきき、シャルマイをやめる)

羊飼いの

(帽子を振るながら巡礼たちに呼びかける)
幸あれ! ローマへ行く人びとよ、幸あれ、
私のあわれな魂のために祈って下さい!

タンホイザー

(舞台の中央に根が浮いているように立っていたが、感動のあまりひざまずいてしよ)
全能の神よ、讃えあれ!
あなたの思恵の奇蹟は偉大だ。
(巡礼の行列はこの時から左へ廻り、山道を通して聖像のそばを過ぎ、次第に舞台から遠ざかり、最も次第に弱くなり、消える。羊飼いやシャルマイを手にし、右の高所から遠ざかる。家畜の鈴の音も次第に遠くなる)

巡礼たちの歌

わがイエス・キリストよ、なんじにわれは謝れる。
なんじは巡礼の望み。
美しき聖母よ、讃えられてあり。
巡礼行に恵みを垂れ給え!

タンホイザー

(巡礼たちの歌が弱まってくとき、ひざまずき、熱心に祈る)

ああ、罪の重荷は私を押え、
ちはや堪えられぬほど。
さればこそ休息を欲せず、
喜んで辛苦をえらぶ。

(原のため彼の声はむせぶ。遠くの方で巡礼たちの歌がまだ続いているが、ついに消えてしまう。その間に背景の深い谷から、アイゼナッハの方から響いてくるらしく、教会の鐘の音がきこえる。この響きも沈黙すると、左の方から角笛の音が次第に近づいてくる)

PILGERGESANG

(sehr entfernt)
Am hohen Fest Gnad' und Huld
in Demut stühn' ich meine Schuld;
gesegnet, wer im Glauben treu!

『三幕巡礼の合唱』

(Als er weiter hinabsteigen will, vernimmt er aus der Ferne den Gesang der älteren Pilger sich nähern; er hält abermals an.)

GESANG DER ÄLTEREN PILGER

(mit welchem diese anfangs aus der Ferne sich nähern, dann von dem Vordergrund rechts her die Bühne erreichen und das Tal entlang der Wartburg zuziehen, bis sie hinter dem Bergvorsprunge im Hintergrunde verschwinden)
Beglückt darf nun dich, o Heimat, ich schauen
und grüßen froh deine lieblichen Auen;
nun lass' ich ruhn den Wanderstab,
weil Gott getreu ich gepilgert hab'.
Durch Stühn' und Buß' hab ich versühnt
den Herren, dem mein Herze frönt,
der meine Reu' mit Segen krönt.
den Herren, dem mein Lied ertönt.
Der Gnade Heil ist dem Büßer beschieden,
er geht einst ein in der Seligen Frieden!
Vor Höll' und Tod ist ihm nicht bang,
drum preis' ich Gott mein Lebenlang.
Halleluja [in Ewigkeit]!
Halleluja in Ewigkeit!

ELISABETH

(erhebt sich, dem Gesange lauschend)
Dies ist ihr Sang-sie sind's, sie kehren heim!
Ihr Heil'gen, zeigt mir jetzt mein Amt,
daß ich mit Würde es erfülle!

WOLFRAM

(während der Gesang sich langsam nähert)
Die Pilger sind's-es ist die fromme Weise,
die der empfangen Gnade Heil verkündet.
O Himmel, stärke jetzt ihr Herz
für die Entscheidung ihres Lebens!

(Elisabeth hat von ihrem erhöhten Standpunkte herab mit größter Aufregung unter dem Zuge der Pilger nach Tannhäuser geforscht. Der Gesang verhallt allmählich; die Sonne geht unter.)

ELISABETH

(in schmerzlicher, aber ruhiger Fassung)
Er kehret nicht zurück!

PILGER

Beglückt darf nun dich, o Heimat, ich schauen
und grüßen froh deine lieblichen Auen;
(verhallend)
nun lass' ich ruhn den Wanderstab ...

『二幕フィナーレ』

LANDGRAF UND SÄNGER

(allmählich beruhigt und gerührt)
Ein Engel stieg aus lichter Äther,
zu künden Gottes heil'gen Rat.

LANDGRAF, RITTER UND SÄNGER

Blick hin, du schändlicher Verräter,
werd inne deiner Missetat!
Du gabst ihr Tod, sie bittet für dein Leben;
wer bliebe rauh, hört er des Engels Flehn?
Darf ich auch nicht dem Schuldigen vergeben,
dem Himmelswort kann ich nicht widerstehn.

巡礼たち

(ずっと遠くて)
慈悲の高き祭典の日に
私は罪を謙虚にあがなう。
信仰に忠誠なるものには恵みあり!

(彼がさらに谷を低く下ろうとすると、老いたる巡礼たちの歌をきき、しばしば足をとどめる)

巡礼たち

(遠くから次第に舞台に近づき、ついで右前方の舞台に到着し、ワルトブルクに沿って谷を歩き、ついに背景の突き出た山のかわりに消えて行く)

故郷よ、喜びてわれはなんじを見る。
美しき草原にうれしくあいさつを送る。
神に仕えて巡礼終えし今、
旅の杖に休息を与えん。

懺悔と悔悟により
わが身と精神の主の許しを得たり、
主はわが懺悔に恩寵を与えたり、
わが望みは主のために響く。
恩寵の救済は懺悔者に与えられたり!
彼は一つの日か天国の平和に行く。
地獄と死とは彼のおそれにあらず、
故にわが命の限り神を讃えん。
ハレルヤ!
永遠にハレルヤ!

エリーザベト

(身を起こし、歌に耳を傾ける)
これこそ彼らの歌。巡礼たちが帰って来たのです!
聖者たちよ、私のなすべきことを
品位をもってなし給えよう、加護したまえ!

ヴェルフラム

(歌の間隙につづりも近づく)
巡礼たちだ。あの信仰深い歌び。
あれはわが恩寵が救済を告げる歌びだ。
ああ、天は、彼女の生の決定のために
彼女の心と力を与えよ!

(高所からじつじうに興奮して通り行く巡礼たちをなめ、タンホイザーを探す。歌は次第に遠ざかり、弱まる。日は沈み行く)

エリーザベト

(ついに苦痛にみち、しかし平静を失わず)
彼は帰って来ない!

巡礼たち

故郷よ、喜びてわれはなんじを見る。
美しき草原にうれしくあいさつを送る。
(次第に消えて行くように)
旅の杖に休息を与えん...

領主と歌手たち

(次第に落ち着き、感動をうけ)
明るき天より天使が降り
神の聖なる忠告を告げたのだ。

領主、騎士たちと歌手たち

彼方を見よ、恥すべき裏切り者、
おまえの悪行をかえりみよ!
おまえは彼女に死を与え、彼女は彼女のために命を乞う。
天使の許えをきく者は心をやわらげずにはいられようか?
罪のある者をも許さずにはいられようか?
天の言葉に抗うことはできないのだ。

TANNHÄUSER

Zum Heil den Sündigen zu führen,
die Gottesandte nahte mir!
Doch, ach, sie frevelnd zu berühren-hoh ich den Lasterblick zu ihr!
O du, hoch über diesen Erdengründen,
die mir den Engel meines Heils gesandt,
erbarm dich mein, der acht so tief in Sünden schmachvoll des Himmels Mittlerin verkannt!
Erbarm dich mein! Ach, erbarm dich mein!

LANDGRAF,SÄNGER UND RITTER

Darfich auch nicht dem Schuldigen vergeben,
dem Himmelswort kann ich nicht widerstehn.

ELISABETH

Ich fleh' für ihn, ich flehe für sein Leben,
renvoll zur Buße lenke er den Schritt!
Der Mut des Glaubens sei ihm neu gegeben,
daß auch für ihn einst der Erlöser litt!

LANDGRAF,SÄNGER UND RITTER

Mit ihnen sollst du wallen
zur Stadt der Gnadenhuld,
im Staub dort niederfallen
und büßen deine Schuld!
Vor ihm stürz dich daniieder,
der Gottes Urteil spricht;
doch kehre nimmer wieder,
ward dir sein Segen nicht!
Muß! unsre Rache weichen,
weil sie ein Engel brach,
dies Schwert wird dich erreichen,
harst du in Stind' und Schmach!

ELISABETH

Laß hin zu dir ihn, wallen,
du Gott der Gnad'und Huld!
Ihm, der so tief gefallen,
vergeb der Sünden Schuld!
Für ihn nur will ich flehen,
mein Leben sei Gebet;
laß ihm dein Leuchten sehen,
eh' er in Nacht vergeht!
Mit freudigem Erbeben
laß dir ein Opfer weihn!
Nimm hin, o nimm mein Leben;
nicht nenn' ich es mehr mein!

TANNHÄUSER

Wie soll ich Gnade finden,
wie büßen meine Schuld?
Mein Heil sah ich entschwinden,
nich flieht des Himmels Huld.
Doch will ich büßend wallen,
zerschlagen meine Brust,
im Staube niederfallen-
Zerknirschung sei mir Lust
O, daß nur er versühnet,
der Engel meiner Not,
der sich, so frech verhöhnet,
zum Opfer doch mir bot!

GESANG DER JÜNGEREN PILGER

(aus dem Tale heraufschallend)
Am hohen Fest der Gnad' und Huld
in Demut stühn' ich meine Schuld!
Gesegnet, wer im Glauben treu:
er wird erlöst durch Buß' und Reu'.
(Alle haben innegehalten und mit Rührung dem Gesange zugehört.)

タンホイザー

罪ある者に救いをもたらすべく、
神よりの使者が私に近づいたのだ!
しかし私はそれに気づかず、彼女に罪業に触れようとし、彼女に肉欲のまなざしを注いだ!
ああ、この地上よりはるか高きにある神よ、
救いのため天使をわれに送り給え! 神よ、
私をあわれみたまえ! ああ、かくも罪深!
天の使いを恥すべく見あやまりしわれを!
われをあわれみたまえ!

領主、歌手たち、騎士たち

罪ある者をも許さずにはいられようか?
天の言葉に抗うことはできないのだ!

エリーザベト

彼のために命乞いをいたします。
改悔の心にもみちて懺悔の道を歩むべきです!
信仰の勇氣があらばに彼に与えられねばなりません、
救世主もまたそのために受難せられた信仰の勇氣を!

領主、歌手たち騎士たち

彼らと共に恩赦の町へと
なんじは巡礼の旅をするのだ。
ひたすらにそこでぬかずき
なんじの罪をあがなえ!
神の救済を伝える人の前に
なんじは身をひれ伏せしめよ!
なんじに恩寵の下らざるときは、
再び降り来るを止めよ!
このたびは天使の定めあれば、
われわれも復讐も避けられすが、
なんじもまた罪と恥辱より脱し得ざれば、
この朝はなんじにどこう。

エリーザベト

恵みと愛の神よ、
彼をなんじがうちに巡礼させ給え!
かくも罪に深く落ちたる者の
その罪を許したまえ!
彼のために私は乞い、
わが命は祈りとなれ!
彼が夜のやみに身を失われぬ中に
神の光を見せしめ給え!
喜びにおののけるこの犠牲を
神よ、受け給え!
わが命を受け給え!
命はわがものとは思わぬ!

タンホイザー

いかんして私は思恵を見いざせるのだろうか、
いかんして私は罪をあがなえるのか?
わが身はいは消えうせた、
人の恵みは私から去った。
しかしわれは懺悔の心にて巡礼しよ。
わが胸をくだき、
ひたすらぬかずこう。
悔恨こそわか楽しみとなれ。
わが苦しみの天使よ、
おまえをゆかしめあざけった私を許し、
私のために犠牲となろうとは!

若い巡礼たちの歌

(低く谷のほうから響いてくる)
恩寵のおこさなる祭の時に
つつしみてわが罪をあがなわん!
信仰にそむかざるものは祝福されてあれ。
彼は懺悔と悔悟により救われん。
(すべての人は身動きをせず、感動をもって歌にきき入っていた)

TANNHÄUSER

(dessen Züge von einem Strahle schnell erwacher Hoffnung erleuchtet werden, eilt ab mit dem Rufe)
Nach Rom!

ELISABETH, LANDGRAF, SÄNGER UND RITTER

(ihn nachrufend)
Nach Rom!

『フィナーレ』

Heil! Heil! Der Gnade Wunder Heil!
Erösung ward der Welt Zuteil!
Es tat in nächtllich heil'ger Stund'
der Herr sich durch ein Wunder kund.
Den dürrn Stab in Priesters Hand
hat er geschmückt mit frischem Grün:
dem Sünder in der Hölle Brand
soll so Erlösung neu erbühnt!
Ruft ihm es zu durch alle Land',
der dirch dies Wunder Gnade fand!
Hoch über aller Welt ist Gott,
und sein Erbarmen ist kein Spott!
Halleluja! Halleluja!
Halleluja!

LANDGRAF, SÄNGER, RITTER UND PILGER

(in höchster Ergiffenheit)
Der Gnade Heil ward dem Büßer beschieden,
nun geht er ein in der Seligen Frieden!

タンホイザー

(突然希望の光がタンホイザーを照らす。彼は叫び声を上げて急ぎ去る)
ローマへ!

エリーザベト、領主、歌手たち、騎士たち

(彼のあとにばかりは)
ローマへ!

ばんざい! 思恵の奇蹟よ、ばんざい!
救済は世に下された!
それは夜の聖なる時に起こり、
主は奇蹟もて自らを示し給うた。
僧の手に持つ枯れた杖を
主は新緑もて飾り給う。
地獄の烙印を持ちたる罪人は
かくて救済を新たに受む!
この奇蹟を通して思恵を見いざせし人の名を
国中に呼びよほよ!
すべての世の上に高く神はあり、
そのあわれみはあざむけにあらず!
ハレルヤ! ハレルヤ!
ハレルヤ!

領主、歌手たち、騎士たち、巡礼たち

(最高の感動にひたされて)
恩寵の救済者は懺悔者に与えられた。
今や彼は天国の平和に入る!



ソプラノ独唱
垣花 洋子

兵庫県立星陵高校を経て愛知県立芸術大学音楽学部卒業。同大学院修了。森川京子、小島琢磨、林安喜子、石津憲一、東敦子の各氏に師事。愛知県立芸大定演、中部読売新人演奏会、兵庫県新人演奏会、こうべ芸文KACCコンサート、東京日演連ジョイント・コンサート、ドンナ・ホールコンサート、ヴィラ・ロボス生誕100年記念コンサート、神戸波の会20周年演奏会等に出演の他、オペレッタ「こうもり」(ロザリンデ役)、オペラ「電話」(ルーシー役)、「フィガロの結婚」(スザンナ役)、神戸室内合奏団定演、京響「第九」のソリストとしても出演。イタリア声楽コンクールソ金賞受賞、飯塚新人音楽コンクール3位入賞、日本音楽コンクール入選。

平成3年度文化庁派遣芸術家在外研修員として、1991年10月よりイタリアへ留学。
関西二期会正会員。

管弦楽 大阪シンフォニカー

1980年9月、小泉ひろし氏を常任指揮者に迎え、音楽大学、芸術大学の卒業生を中心に、フル編成のオーケストラとして活動を開始する。

年4回の定期演奏会の他、春・夏・秋の特別演奏会、また年末には日本各地でのベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」等の演奏会を数回行う他、「ニューイヤーコンサート」「協奏曲の喜び」のシリーズも年数回自主公演として行っている。

最近は各合唱団や企業からの依頼、またホール主催のコンサートやスクールコンサートにも熱意ある演奏をしめし、その評価は確固たるものとなってきた。専属合唱団として大阪シンフォニカー合唱団がある。

社団法人を目標として、1988年に設立された大阪シンフォニカー協会も、1991年10月三洋電機株式会社社長 井植敏氏を理事長に迎え、理事会社数社および顧問、相談役等の就任により、いよいよその内部体制を充実させている。

1990年には過去10年に果した活躍の功績に対し、大阪府知事より表彰を受けた。また、1991年秋に行われた大阪文化祭において、参加142団体の中で、もっとも優れているとして本賞を受賞した。

1992年1月より音楽監督・常任指揮者としてトーマス・ザンデルリンク氏を迎え、今後益々大きな活躍が期待されている。



VIDEO, RECORDING, DESIGN

株式会社 サウンドスタジオ OKA

〒606 京都市左京区下鴨半木町70
☎(075)712-5710 FAX (075)721-0835



私達スタッフは、皆様とのコミュニケーションを大切に実績ある技術で今宵のコンサートのCD制作を担当しております。



システム設計・販売・サポート・出力サービス

OKA GRAPHIC CENTER

〒606 京都市左京区下鴨半木町70
☎(075)711-6155 FAX (075)711-6758

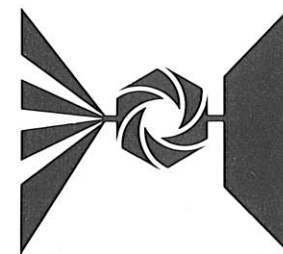
と き
きらめく瞬間を
未来に伝えたい。

好きなことをしている時、
感激で胸がいっぱいになった時、
誰もが、とってもいい顔をしています。

あなたの記念すべきその時を、あなたの素顔にきらめくその一瞬を、私達はのがしません。

未来に残す素敵な記念写真をお届けするために、いつもいっしょうけんめいの

大阪フォトサービスです。

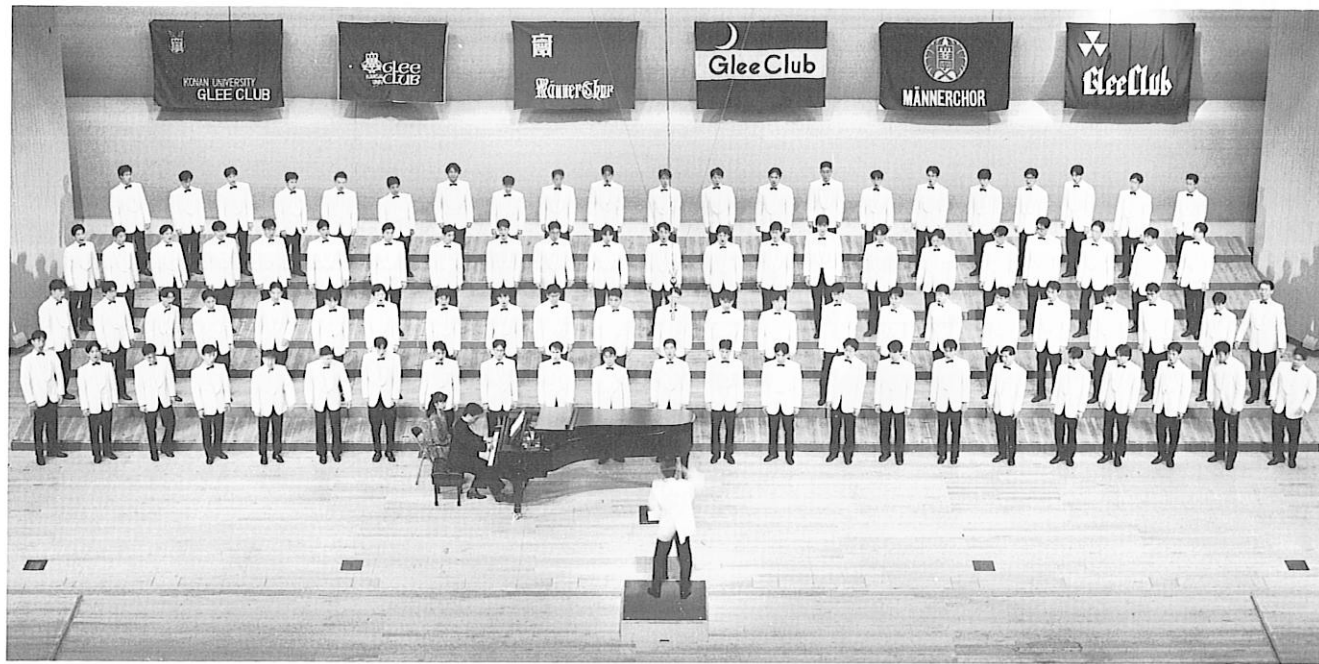


OSAKA PHOTO SERVICE

株式会社 大阪フォトサービス
〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17
TEL. (06) 443-7608 (代表)
FAX. (06) 443-4437

同志社グリークラブ 1st STAGE

ステージ1



「俺達に休息はない」

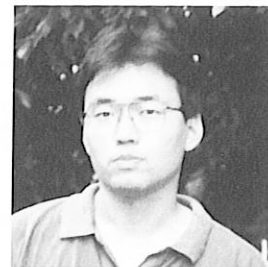
同志社118年の歴史において、最も由緒ある団体であり、日本の合唱団の中でも最古の部類の属する私達同志社グリークラブは、今年で創立89年を迎えます。その間我が同グリーは、西洋音楽の普及に努め、精力的に活動して参りました。

そして今年の6月には同関交歓演奏会、東西四大学合唱演奏会を行ない、また7月の夏季演奏旅行では、新島襄の足跡をたどり、函館及び青森県に行つて参りました。更に8月には米国のハーバードグリークラブと演奏会を、9月にはOBの方々と共に渡米、新島襄ゆかりの各地にて現地の団体と演奏会を行いました。その中でも、世界三大ホールの一つとして名高いボストンシンフォニーホールの舞台上立つという貴重な体験は、我々にとって一生の思い出となることでしょう。

このように、8月、9月ですっかりアメリカナイズされた同グリーです。アメリカ文化との接触は、我々の感性を磨き、平均体重をも大幅にUPさせ、質的にも量的にも成長した思いがします。このような意義深い活動を行なうことができますのも、お世話下さった諸先生方を始め、演奏会に来てくださる皆様のおかげと感謝しております。今宵のステージは、同グリーのモットーであるところの「聴衆と一体になる音楽」を目指し、爆発したいと思ひます。

我が輩は幹事長である。名前はずいぶんある。サノヤスヒロ。どこで生まれたのかヒョンと見当がつかぬ。なにしろ怖いおにいさんたちの囲まれていたのだけ覚えてる。だから今、こうなった。親ゆずりの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。浪人時代、新聞配達のパイトをしていて怖いおにいさんにぶつかったが、持ち前の見かけの怖さと気の弱さで逃げ散った。しかし、我が輩は走る姿が不格好なのでスーパーカブで逃げ散った。怖い目にもあったが、いい事もあった。何とこのパイトのおかげで赤本に載ったのである。おそらく編集者へのおどしがきいたのであろう。大学に入りグリークラブに入部した。我が輩には似ても似つかないクラブである。すぐにやるつもりだった。しかし我が輩は見かけによらずピアノが弾ける。叩けると言った方がいいかもしれないが。昔はよくピアノを叩いて壊したもんだ。このクラブに居れば合法的にピアノが叩ける。しめた。毎日ピアノが叩けるパトリーになろう。だが、「いやそんなことないっすよ」といってもワゴンボ遅れて返事をするIにだしぬかれた。しかし、我が輩が密かに新町別館402のピアノを叩いている事は、最近の402のピアノの音を聞けば、皆さんもお気づきであろう。

部長
佐野 泰弘



我輩は
幹事長である。

Top Tenor	朝間 智昭 (商4)	福田 研二 (工4)	伊藤豪史郎 (商4)	三村 剛司 (法4)	岡 勇蔵 (商4)	山田 恵成 (経4)
	東 光彦 (商3)	川島 伸規 (商3)	小林 武弘 (工3)	森 俊樹 (文3)	梶原 亮 (神2)	久堀 太士 (経2)
	桑添 泰幸 (商2)	角 由久 (商2)	富田 尚 (経2)	池永 洋介 (文1)	小林 宗洋 (法1)	藤井健太郎 (法1)
	長森 太郎 (文1)	矢野 尊久 (経1)				
Second Tenor	鹿島 啓 (文4)	国寄 康則 (工4)	森下 貴夫 (法4)	村田 知彦 (工4)	南條 崇 (工4)	人見 幸明 (法3)
	岩佐 圭記 (法3)	川西 裕之 (商3)	坂野 友紀 (法3)	真 幸洋 (工3)	平谷 有祐 (工2)	小糠 純 (文2)
	園田 誠 (工2)	川口 裕之 (工1)	中山 聡 (経1)	鈴木 拓治 (法1)	田栗 雅晴 (工1)	
Baritone	近藤 博和 (工4)	佐々木道哉 (法4)	竹内 秀樹 (経4)	谷本 啓 (商4)	辻 健三郎 (経4)	八尋 秋彦 (法4)
	山口 弘 (工4)	荒川 剛 (法3)	土井 邦康 (経3)	長谷川宏志 (法3)	小寺 康治 (商3)	久保田義臣 (文3)
	古武 晃 (工3)	千神 敏正 (文2)	福栄 貴史 (工2)	福原 敦士 (法2)	高津 智宏 (工2)	上野 大介 (経2)
	宇都 康之 (商2)	古本 健司 (文1)	本多 慎司 (商1)	御堂 昌昌 (工1)	水野 武司 (法1)	坂田 善弘 (商1)
	関 安記臣 (法1)	立原 太 (文1)	安池 尚志 (経1)			
Bass	浅海 誠 (法4)	市之瀬 崇 (経4)	岩本 光司 (工4)	三原 卓 (工4)	奥村 建 (工4)	佐野 泰弘 (法4)
	産賀 伸一 (法4)	打田 俊明 (文4)	吉田 泰典 (法4)	追 謙祐 (法3)	佐藤 嘉和 (文3)	白川 行宏 (経3)
	平山 直之 (経2)	山田 正樹 (工2)	佐藤 利宏 (工2)	浦川 和弘 (経2)	広瀬 圭一 (工1)	山元 進 (文1)
	山名 直明 (神1)	藤井 啓介 (商1)	田中 幹人 (商1)	中谷 統久 (法1)	平井 宏則 (文1)	

大阪大学男声合唱団 2nd STAGE

ステージ2



史上絶叫、阪大男声!!

鮮烈な青いブレザーで馴染みの「阪大男声」こと、私達、大阪大学男声合唱団は、去る1月に第40回定期演奏会を無事成功させ、心新たに練習に励んでまいりました。阪大男声は、今年も大量の活きのいい1回生を生け捕りにし、120余名の大部隊として活動を開始しました。が、いかに私達が歌で固く結ばれているとはいえ、さすがに男みれの状態では、欲求不満も募る一方です。この鬱憤をどう処理するかが、阪大男声の活動上最大の課題でした。5月の六連運動会は残念ながら雨で中止となりましたが、その後の合コン、合ハイシーズンには欲望を如何なく炸裂させ、全員無事にハイテンションで夏を迎えました。7月には、神戸女学院大学コーラス部、武庫女子大学コーラス部の皆さんとJoint Concert「史上最響」を開催し、合同指揮浅井敬堂先生のもと、熟成された混声合唱を生み出すことができました。そして今宵、私達は、多田武彦氏作曲の「木下李太郎の詩から」で、重厚な無伴奏男声合唱の世界を繰り広げます。脂の乗りきった阪大男声の力強さと同時に、心の温もりをも感じとって頂ければ幸いです。最後になりましたが、技術顧問の浅井敬堂先生、ヴォイストレーナーの北村敏則先生をはじめ、お世話になりました諸先生方に深く感謝するとともに、今後とも一層皆様の御指導御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

松岡逸郎：性別男性、1971年1月18日愛媛県松山市生まれ22才、大阪大学法学部法学科、法律コース選択、江口ゼミ、団内役職・運営委員長。

彼について語ろう。松岡逸郎：我等がボス。彼は120名のワガママ集団阪大男声を統帥する最高権力者である。彼はその指示基盤である不良団員どもを彼の手下である7名の運営委員を操って治める策士である。団員の良き理解者、言ってみれば兄貴のような(否、そういう意味でのアニキではない)存在である。

松岡逸郎：83kg。年々地球に世話をかける重さも、重要度も増してきている。豪放にして緻密、冷静にして大胆。彼の身にまとう雰囲気語るに、言葉はあまりに無力である。

松岡逸郎：妻帯者。彼は遠く播磨の国にその同じ時間と夢を共有する理解者を持つ(女性ファンの方残念ね)。愛車CB400(Super Four)は、今日も中国自動車道を西へと走るのであろうや。

松岡逸郎：博才多藝。法的知識を鮮やかに乱用し犯罪集団(?)阪大男声を料理する。影の指揮者は混沌のアンサンブルを誰より愛する。

松岡逸郎：コイケヤチビノワ。この物語をお伝えする私が嘘つきであることを除けば彼の将来はあまりに明るい。

その男、マッチにつき

運営委員長紹介
松岡 逸郎



Top Tenor	末崎 敦史 (薬4)	向井 卓 (工4)	綿林 寛資 (基4)	浅川 知洋 (経3)	川西 隆行 (法3)	北野 勝久 (工3)
	小松 貴英 (理3)	高田 鮮 (法3)	増田 一郎 (法3)	菊岡 大輔 (人2)	武田 淳 (法2)	畑 恵史 (工2)
	廣内 健人 (文2)	和泉 徳喜 (工1)	岩城 泰 (薬1)	宇田 文顕 (経1)	大倉 雅司 (法1)	加藤 浩大 (工1)
	直井 重樹 (基1)	深澤 景吾 (理1)	古宮 知宏 (経1)	山岸 正幸 (基1)		
Second Tenor	市村 淳一 (文4)	岩本 敬 (工4)	小山 昌城 (理4)	弥永 直行 (工4)	石垣 嘉信 (工3)	岩井 敬文 (工3)
	柿原 淳謙 (理3)	北村 潤 (工3)	黒田 敦郎 (経3)	柳 陽介 (法3)	岩田 泰明 (工2)	河上 敬介 (人2)
	合田 慎一 (工2)	白木 成拓 (理2)	城田 隆仁 (経2)	田中 克成 (法2)	秦野 節夫 (基2)	古川 敏之 (文2)
	新井宏一郎 (理1)	池田 修造 (工1)	内橋 隆行 (理1)	川崎 明浩 (経1)	佐々木純彦 (法1)	瀬川 寛 (理1)
	田中 鐘信 (理1)	門尾 竜哉 (工1)	山崎 一輝 (工1)	鶴田 昌幸 (基1)		
Baritone	五十嵐達郎 (法4)	池田 英生 (工4)	大堀 力 (基4)	彼末 一朗 (理4)	楠瀬 賢也 (基4)	坂下 博一 (工4)
	清水 計成 (工4)	高多 学 (工4)	高田 和宏 (基4)	高吉 賢吾 (経4)	村松 伴博 (工4)	大村 歩 (法3)
	清家 信 (理3)	曾我部大和 (文3)	高瀬 克信 (工3)	谷 篤史 (理3)	桑谷 直紀 (工3)	平野 秀 (人3)
	山内 文彦 (法3)	越智 保宏 (人2)	正山 誠 (経2)	曾我部義久 (経2)	田中 信裕 (経2)	中間 智亮 (経2)
	福永 達也 (法2)	水本 淳也 (基2)	山本 太三 (工2)	八幡 宏志 (文2)	大橋 一彦 (商1)	奥田 健二 (理1)
	角谷 英史 (経1)	中野 史朗 (基1)	藤野 修史 (経1)	宮武 進吾 (人1)	村本 英士 (工1)	
Bass	荒木 亮太 (文4)	宇田 哲也 (工4)	越田 周平 (理4)	佐伯 圭次 (法4)	松岡 逸郎 (法4)	村井 品 (基4)
	森口 浩伸 (工4)	山口 剛 (工4)	安藤 薫 (理3)	今仁 武臣 (理3)	太田 武 (工3)	大西 直文 (工3)
	川北 泰誠 (理3)	木村 和広 (理3)	辻澤 修 (経3)	鶴崎 宗雄 (基3)	永井 豪 (基3)	長野 公一 (工3)
	吉田 篤史 (人3)	浅井 浩 (人2)	福田 吾郎 (経2)	今泉 聡介 (人2)	北山 雅樹 (基2)	新貝 裕之 (経2)
	田中 俊明 (経2)	梅本 謙一 (文2)	青木慎一郎 (基1)	市原 武志 (工1)	岩道 牧雄 (人1)	小川 倫洋 (薬1)
	梶 光男 (基1)	鎌田 和人 (薬1)	北岡 裕章 (法1)	白石 和範 (法1)	神野 雅彦 (理1)	松田 佳久 (法1)
	松村 尚志 (経1)					



甲南大学グリークラブ

3rd STAGE

ステージ3



自由奔放集団

プロローグ

昨年、第40回リサイタルを記念して、多田武彦先生作曲による委嘱作品、男声合唱組曲「秋の流域」を演奏し、甲南大学グリークラブにまた1つ新たな歴史が加わった。

皆さん今晚は、今年も四十名余りの部員を引き連れてフェスティバルホールにやって参りました。

甲南大学のイメージと言えば、一般的には“お坊ちゃん大学”とよく言われますが我が甲南にとっても例外ではありません。“お坊ちゃん”といってもお金持ちと言う意味ではなく(むしろ持っていないやつが多い)性格的にそうだということです。

世間知らずでマナーが悪く、まだまだ大人になりきれない…。協調性、社交性に欠け、自分勝手ていい加減。しかし、こんな僕達でも一生懸命になり、そして全員の気持ちが1つになることがあります。それが演奏会です。

こんな未熟な僕達がシューベルトの音楽にどれだけ近付けるかわかりませんが、今日まで練習して来た成果を是非御鑑賞下さい!!

エピローグ

今宵の演奏会は甲南グリーの歴史にまた新たに1つ加わることになるだろう。

やあ、皆さん、今晚は!

今日は、僕達甲南大学グリークラブの素敵な演奏を聴きにに来てくれてどうもありがとう。おっと言い忘れてたけど、僕は平野智宏、甲南グリーの中で一番熱い男。僕は甲南グリーの中で一番偉い委員長なんだ。どういことをするかと言うと、だらしない部員に気合いを入れたり、卓越したギャグセンスで活気付けたりするのさ。僕はね、甲南グリーをとて愛しているんだ、だけど皆さんは僕を理解してくれない。例えば僕がオモシロイ話で盛り上げようとしても、誰も笑ってくれないし、僕がテレビを見て笑っていても、皆さんはチャンネルを換えようとかかりする。ああ、こんな僕を慰めてくれる女性はいないのだろうか?もう賢淑は言わない、女子高生じゃなくてもガマンする、酒飲ましてみりやりなんて事もしない、コンパで女と2人でいつの間にか消えるなんて事もしないから…。

おっと、つい私事になってしまっ、実は今年僕には大きな使命があったんだ。それは「甲南グリーメン紳士化計画」なんだ。でも皆さん紳士どころか、大人にもなれないといったトコロなのさ。

紳士の中の紳士

委員長
平野智宏



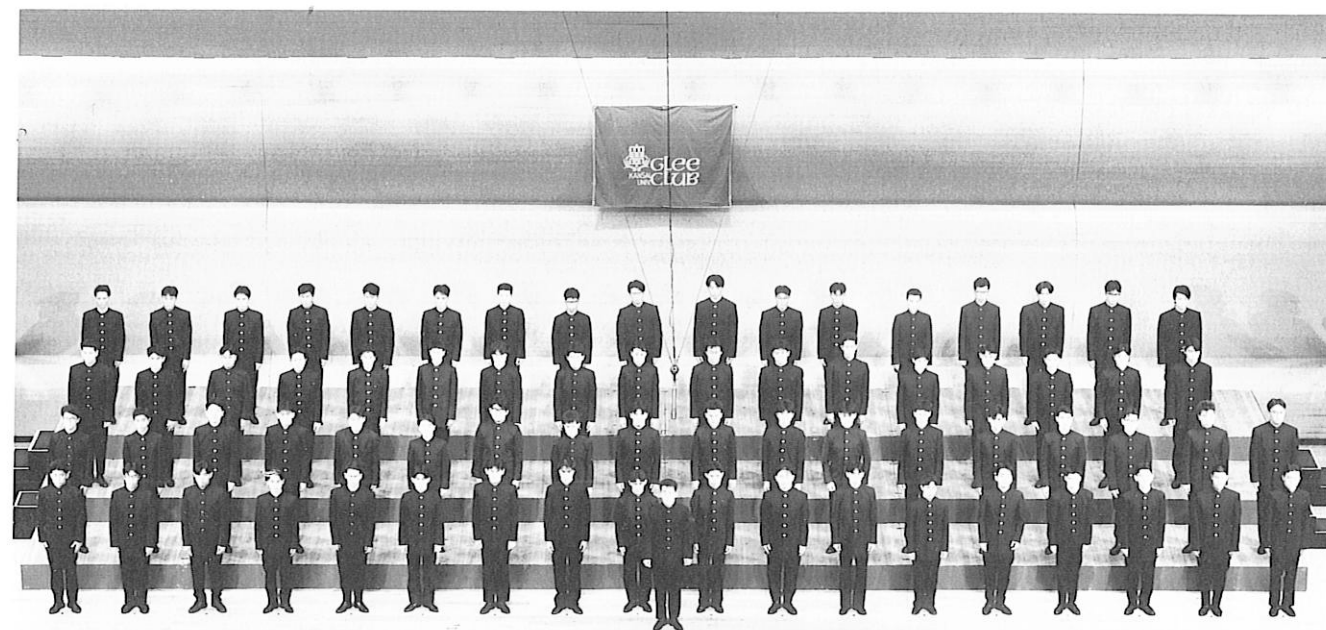
Top Tenor	大澤 剛 (経4) 栗田潤二郎 (文2)	吉村 寛 (経4) 浅沼 友博 (営1)	酒井 雅之 (文3) 長谷川 暢 (理1)	山本 康和 (理3) 八木 理仁 (経1)	依藤 嘉久 (経2)	国松 雅治 (経2)
Second Tenor	金子 哲也 (経4) 福井 基之 (理2)	畔柳 康博 (理4) 大野 正宏 (理1)	片岡 太志 (経3) 兼松 幹夫 (営1)	森 仁成 (文3) 寺田 忠正 (文1)	岩井 昭博 (理2) 中野 正之 (文1)	高宮 元 (営2)
Baritone	江口 寿 (経4) 小林 次良 (営2)	高田 剛 (理4) 三原 吉史 (理2)	平野 智宏 (営4) 湯瀬 尚志 (営2)	大宮 一浩 (経3) 松本 宏章 (営1)	川野 良雄 (営3) 森 恵史 (経1)	岸見 貴志 (法2)
Bass	野々村孝誠 (法4) 阪部 元伸 (営2)	藤本 学 (営4) 山本 将慈 (理2)	安川 源太 (経4) 岡野 哲也 (営1)	荒巻 智之 (法3) 反保 剛志 (営1)	三戸 雅司 (法3) 寺田 章敏 (理1)	河盛 泰明 (文2)



関西大学グリークラブ

4th STAGE

ステージ4



どすこい、関大

今年の関西大学グリークラブはひと味も、ふた味も違います。

4月、例年以上に個性豊かな1回生が入部し、新風を吹きこんでくれました。そんな新歓活動の合間に行われたのが、日本放送協会の主催するグリークラブ日本一決定戦です。関西合唱界の熱い声援を背に受け西日本代表として敵地東京へ進出、東日本代表に圧勝しました。関西大学グリークラブの底力を日本全国にアピールし、日本一の証である黄金のファイト像(ルー大柴のサイン入り)を関西に持ち帰ったことは皆様の御記憶に新しいことと思います。「今年は、優勝を狙いにいく!」と、部員一丸となっていた5月の六連運動会は雨のため中止。ちなみに各部員が準備した仮装用の衣装代、パーマ代などの損失の総額は25万円にもおよび、ここにも関大グリーメンの何事にも全力を注ぐ姿勢が表れています。(六連マネが雨天中止の責任をとり頭を丸めたことは、各国の渉外の方々の笑いのネタになったことと思います。)

6月には第32回関交歓演奏会、9月には第14回関西大学グリークラブ・千里エコー交歓演奏会を成功させることができました。そして今宵は「草野心平の詩から第三」を演奏致します。今までとは違う関大グリーを客席の皆様にご覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、御多忙にもかかわらず我々を御指導下さる横田浩和先生、沢田和夫先生をはじめ諸先生方に部員一同感謝致しますと共に今後一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

この男が関西大学グリークラブの顔、主将の北出啓一郎である。六連運動会にわざわざ買ったという般若の下の素顔は、顔色と下くちびるが織田裕二に似ていると言われていたが、最近、人事・浜路の指導により、ヤクルトの川崎に似ているという事で落ち着いた。

さすが主将というだけあって皆が大爆笑するようなギャグでも反応しない。しかし誰かが言った何気ない一言に大笑いする。そんなマイペースな彼は、就職活動でも「別にどうしても御社に入りたい訳ではありません」と発言して相手方を凍らせたらしい。そんな中、NHK出演を見たゼネコン大手の某S水建設から御声がかった。面接の過程で結局落ちたそうだが、S水建設の役員が次々と逮捕された今、落とされて良かったと四回生一同保護者のような気持ちでいっぱいである。

さて、クラブのない日の彼は加古川FCのエースストライカーとして大活躍している。また、折り紙やケーキ作りの乙女チックな趣味は一部の女子大生の間では有名である。TVですっかりおなじみの折り紙のパンダさんはいろんな人から折ってほしいと頼まれているそうだが、どうやら指揮者の小栗のお母さんには折って送つたらしい。そう言えば筆者の誕生日にケーキを作ってくれるという話はどうなったのだろうか。

こんな副主将よりも年下の主将だが、スクワットでは負け知らず。その自慢の脚力で今日もフェスティバルホールの舞台をしっかりと踏みしめていることだろう。

いい出逢いがあれば大切にしたい!!

主将
北出啓一郎



Top Tenor	一瀬 正臣 (工4) 坂本 賢治 (商3) 高木 恭士 (工2) 平原 竜一 (工1)	小栗 知之 (法4) 筒井 建夫 (商3) 寺田 佳弘 (経2)	北 和秀 (社4) 日浦 利晃 (社3) 池野 泰行 (商1)	間 和史 (社4) 吉本 博之 (経3) 酒井 幸平 (商1)	細橋 良紀 (商4) 北井 俊之 (経2) 成澤 忠彦 (経1)	井上 直樹 (工3) 河野 強 (工2) 西村 憲一 (文1)
Second Tenor	今林 敦彦 (社4) 今井 大 (経3) 野原 康志 (経2) 長谷川正行 (商1)	館 英利 (文4) 打田 智幸 (社3) 前田 謙平 (経2) 藤平 武巳 (商1)	濱路 俊秀 (社4) 虎城 正仁 (工3) 山中 芳崇 (商2) 松井 希之 (工1)	山崎 哲也 (経4) 白瀬 就平 (文3) 尾関 隆之 (文1) 村木 武盛 (法1)	山脇 徹也 (社4) 三重野淳二 (法3) 島村 圭 (工1)	伊奈 博之 (社3) 勝尾 盛宜 (文2) 鈴木 夏来 (文1)
Baritone	小泉 慶和 (経4) 中原山志貴 (経3) 角田 敦史 (法2) 清水 岳行 (社1)	野原 敦志 (社4) 平田 和宏 (商3) 中井 亮太 (経2) 地引 康行 (法1)	山下 達哉 (社4) 松本 大介 (経3) 中田 光彦 (経2) 長島 孝志 (文1)	山本 克也 (工4) 矢野 篤 (社3) 森 研二 (社2) 藤巻 昌也 (商1)	池田 喜彦 (経3) 山之内良洋 (社3) 山方 太郎 (経2)	垣本 修志 (工3) 出井壮一郎 (文2) 落合 康裕 (商1)
Bass	阿部 徹 (文4) 近藤 雅路 (工2) 北野 哲 (商1)	北出啓一郎 (経4) 鈴木 貴裕 (社2) 竹内 寛 (文1)	岡井 研三 (経3) 高橋 秀人 (文2) 平岡 寛 (社1)	津田 和彦 (経3) 長島 均 (工2) 平山 篤史 (文1)	中嶋 修一 (商3) 西野 雅之 (商2)	横溝 宙 (法3) 芳野 文典 (文2)



御来場の皆様へ

平成5年11月3日

拝啓 秋の候、皆様ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。秋の夜長、テレビにばかりかじりついていたのでは気が狂いそうになって来ましたので、趣味を持とうと思い、立命館大学メンネルコールに入りました。これは、先輩方に強引に捕まって知ったサークルで、ソフトボール部、サッカー部、卓球部、エイズ研、バター研など、たくさんの活動場所があります。

団員は現在80名程で、色々な人が所属しており、思わぬ人、別な世界の人と知り合えるのが何よりの魅力です。特にTバック、Vバック、Oバックの娘がいっぱいいるので最高です。

本年度の活動としては、2月19日から2週間かけてのカナダ演奏旅行を皮きりに、6月19日には明立交歓演奏会が行われました。そして本日の関西六大学合唱演奏会を経て、12月18日には一年間の活動の集大成である定期演奏会が行われます。あなたも参加してみませんか。

次回は11月5日16時30分から、場所は以学館2号です。

団費等につきましてはその時詳しくお知らせ致しますので一度いらしてみたいですか？

まずは上お知らせまで。

敬 具

P.S 真剣に受け取らないでね。

友広さん、貴方は驚くでしょうが、これが最後の手紙と思って下さい。この手紙をかくことは私にとってどれほど勇気と決断が必要であるか想像がつくはず無いでしょう。この手紙を書くことによりあなたを傷つけたくないし、しかし書かなければもっと傷つけることになってしまう。どうかこの手紙を読んで私のことを悪く思わないでください。泣き明かして、よく考えた結果なのですからどうか許してください。

あなたと初めて会って今日まで、私は本当に幸せでした。あなたの温かい心をどんなにありがたく思っていることか、私は本当につらいんです。どうか私の気持ちをお察しください。

あなたと何度も通った「ホテル北国」

の思い出で、いつまでも忘れません。

さあ今日はニューバラカBig and Big!

今日もモーニングに出掛ける彼であっ

た。

今西友広、現在立命館大学メンネル

コール部長。

今まで経験もしなかった初めての屈辱

を味わうが、そんな事にめげない彼で

ある。

さあ今日はニューバラカBig and Big!

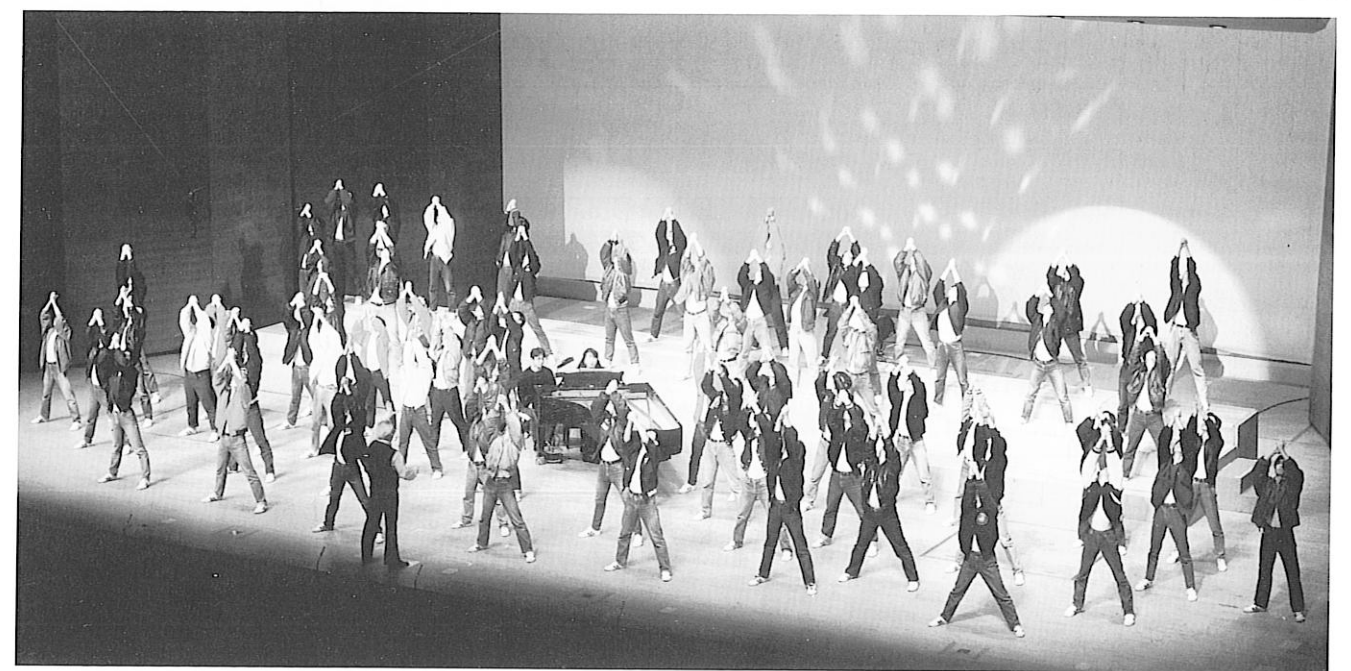
今日もモーニングに出掛ける彼であっ

た。

部長
今西友広



Top Tenor	石井 一也 (文4)	大橋 伸行 (法4)	川本 光哉 (経4)	酒徳 泰行 (理4)	笹川 修平 (文4)	村里 正寿 (営4)
	山本 真久 (法4)	春山 真一 (産3)	宮村 真 (理3)	赤木 潤一 (経2)	小松 弘和 (経2)	下野 慎梧 (経2)
	長尾 朋彰 (国際2)	奈良 顕一 (経2)	野口 輝久 (経2)	樋口 宗弘 (経2)	入江 拓郎 (営1)	金沢 大資 (産1)
	竹内 直明 (法1)	西出 芳人 (文1)	野中 光彦 (文1)			
Second Tenor	大西 洋平 (理4)	鎌原 宏充 (法4)	鮫島 治 (理4)	鈴木 靖久 (法4)	瀬戸 淳司 (産4)	高田 太 (国際4)
	筒井 和彦 (営4)	近藤 利彦 (法3)	清水 陽一 (理3)	瀬田 英啓 (法3)	山本 知弘 (法3)	伊藤 健治 (産2)
	塚原山紀夫 (経2)	森 健市郎 (文2)	浅野 章仁 (営1)	関口 郁生 (法1)	寺西 広誠 (営1)	
	長井 則幸 (経1)	牧 耕治 (営1)	山中 勇人 (経1)			
Baritone	石原 篤 (産4)	大脇 啓一 (経4)	橋爪 清光 (産4)	藤井 正晃 (経4)	米澤 稔 (経4)	渡部 俊郎 (法4)
	太田 尚宏 (法3)	織田 寿文 (文3)	鹿島 浩司 (理3)	柏木 隆伸 (営3)	柳原 集 (営3)	柳原 龍介 (経3)
	永井 智之 (経3)	安沢 基 (経3)	高橋 直樹 (経2)	山浦 義博 (経2)	河村 晃 (産1)	木下 雅行 (文1)
	古閑 丈郎 (理1)	中家 正人 (文1)	平郷 浩士 (産1)	前橋 誠也 (文1)	山本 裕史 (営1)	
Bass	今西 友広 (経4)	片岡 伸浩 (経4)	広瀬 聡 (産4)	藤村 哲也 (法4)	秋田隆一郎 (法3)	穴見 友彦 (文3)
	常住 信教 (文3)	島本 俊彦 (理3)	山本 修 (理3)	木村富士尾 (文2)	米澤 元樹 (営2)	佐々木 晃 (営1)
	高田 真才 (経1)	寺尾 裕昭 (法1)	西崎 士朗 (営1)	野村 慶人 (産1)	堀江 弘泰 (産1)	前川 幸康 (営1)
	増元岳二郎 (営1)					



関学グリーここに現る

皆さん、今晚は。今宵、単独ステージの取りを務める関西学院グリークラブです。グリークラブは、「Mastery For Service<奉仕への練達>」をモットーとする学院に、日本最初の男声合唱団として誕生しました。以来94年間、恵まれた学院の宗教的雰囲気と、内外の暖かいご指導の中で、様々な活動を行ってまいりました。現在では、春、夏の日本各地への演奏旅行、東西四大学合唱演奏会、関西学院グリークラブフェスティバル、関西学院グリークラブリサイタルと本日の関西六大学合唱演奏会などを主として活動しております。

春に六連運動会を雨で流した今年、この演奏会は例年より白熱したものになるにちがいありません。そこで私達が、「同関」の興奮さめやらぬこころフェスティバルホールにもってきた曲は「コダーイ男声合唱曲集」。ほんの3か月前に初めて会ったマジャール語。まるでなんかの暗号のような、あるいはお経のような…。この頼りない六十数名のマジャール人を指揮するのは関学グリーの運命を担った丸山武彦。マジャール人の心の叫びを歌い、皆様と感激を共有すべくこの記念すべき第20回六連に臨みます。

最後に、未熟な私達を親身になって御指導してくださいました諸先生方、多くのOBの方々、そして本日の会場にお越し頂きました全ての方々に深く感謝するとともに、今後とも一層の御指導、ご鞭撻の程賜りますようお願い申し上げます。

酒とタバコをこまなく愛する。「男を磨く」と称しては「男塾」と題する宴会を開き、一年生を地獄においつめす。「毛」から煙が立つことに生き甲斐を感じ、そのワザを2回Y野に伝授したのは9月のことだった。しかし、この宴会を開く目的が「演奏会を成功させるため」だったことに疑問を感じたのは筆者だけではないようだ。尚、この宴会の凄まじさを物語するために、病院にお世話になったものが一名いたことを付け加えておく。

彼の重低音は回りの人間をしびらせるほど魅力的だが、たんにニコチンをパワー源とするサイボーグ男である。現在、喉が弱いと悩んでいる下級生を見つけては「ニコチン」を勧め、合唱サイボーグを開発中。しかし、練習後吸殻をかたずける後ろ姿には庶務水口としての知られざる一面があった。こんな我迷部長とお話がしたいと言う君たち、p.m.8:45にF井屋で待てます。

オレに
ついてこい!

部長
水口真士



Top Tenor	田中 裕之 (経4)	岡畑 幸一 (経4)	上原 克之 (法3)	福田 隆弘 (経3)	井上 淳 (法3)	下岡 晋 (文3)
	川越 文夫 (文2)	山崎 忠大 (法2)	竹本 大祐 (法2)	中谷 克己 (商2)	大村 武志 (文2)	穀野 雅之 (経2)
	金岡 弘治 (法1)	鬼塚 恒 (法1)	野々垣智哉 (商1)	吉岡 裕記 (文1)	門田 光生 (商1)	篠田 篤志 (社1)
	山元 栄治 (商1)	倉本 典明 (法1)				
Second Tenor	宮脇 浩 (社4)	山田 雄一 (商4)	生島 朗 (法3)	小門 操一 (商3)	丹上 敬史 (文3)	下坂 淳 (社3)
	八木 俊嗣 (法2)	山本 寿 (文2)	織田 晃嘉 (文2)	夏池 康行 (商2)	河村 祐吾 (経2)	吉丸惣一郎 (文1)
	平松 宏茂 (文1)	納重 機人 (理1)	北仲 知也 (商1)	松末 泰宏 (経1)	岩本 浩昭 (社1)	
Baritone	小切 健司 (法4)	西條 誠一 (商4)	森田 義久 (商4)	小西 健一 (法4)	大井 俊明 (経4)	酒井 由行 (文3)
	下村 純平 (法3)	伴野 考司 (法3)	福宜 悟 (文3)	柴田 大 (文3)	八木 一夫 (文2)	猪熊 兼樹 (文2)
	永友 朝史 (経2)	梶 勤 (商2)	角野 義電 (商1)	岩月 隆光 (文1)	田中 秀樹 (経1)	
Bass	森 誠太 (商4)	丸山 武彦 (法4)	斗山 英紀 (法4)	水口 真士 (経4)	江種 宏則 (文3)	大塚 範幸 (経3)
	岸本 周士 (経3)	乾 友範 (法3)	吉田 修吾 (文2)	塚崎 拓也 (文2)	田中 稔浩 (法2)	中野 将武 (文1)
	川崎 剛司 (法1)	高橋 智 (経1)	高橋 大 (経1)			

定期演奏会のお知らせ



奈良女子大学音楽部第29回定期演奏会

- I. 「海は見てきた」より 作曲/平吉毅州
 II. Special Stage
 III. KLEINE STILLE NACHT-MESSE 作曲/Hermann Kronsteiner
 IV. 「暁と夕の詩」 作曲/木下牧子

客演指揮/山本 壽太郎 指揮/藤井 弓子 ピアノ/栗田 清隆・萩原朗子

1993年11月18日(木) 開演PM6:30 奈良女子大学講堂

(近鉄奈良駅①番出口より北へ徒歩5分)

<連絡先>石川敦子(0721)26-0363



ノートルダム女子大学合唱団 第28回定期演奏会

- ・カンタータ「感謝のラブソフィー」その他

指揮/ジャン・メルオー神父 ピアノ/長田育忠

・女声合唱組曲「暁と夕の詩」 指揮/勝間恵子 ピアノ/藤井由美

・「MY FAIR LADY」 指揮/白木里美 ピアノ/宮崎直子

・女声合唱とピアノのための「女の肖像」 指揮/平松 睦 ピアノ/藤井由美

1993年12月21日(火)開場P.M.6:00開演P.M.6:30 長岡京記念文化会館

<連絡先>加藤道子0749(23)6620



第30回甲南女子大学コーラス部記念定期演奏会

- I. 空とぶうさぎ 指揮/藤田美保 伴奏/猪木聡子
 II. 青春のネガティブ 指揮/宮柳裕里 伴奏/藤原睦子
 III. アポリネールの詩による四つの無伴奏小品集「白鳥」より「小鳥が歌う」他 指揮/洲脇光一
 IV. OG 合同「Messe beatæ Virginis」 指揮/洲脇光一 オルガン伴奏/土橋薫

1993年12月23日(祝)開場P.M.1:00開演P.M.2:00

甲南女子大学校内甲南女子学園芦原講堂

<連絡先>大東由紀(0727)83-3439



大谷女子大学合唱団第20回記念定期演奏会

- I. 「ディズニー合唱曲集」より 指揮/安田悦子 伴奏/大原美香子
 II. 「中田喜直女声合唱曲集」より 指揮/斉藤正義 伴奏/物種純子
 III. 「音楽の連結」 編曲/早野柳三郎
 IV. 「女声合唱曲 永訣の朝」 指揮/安田悦子 客演伴奏/村上睦人

1993年12月25日(土)開場P.M.5:30開演P.M.6:00

八尾市文化会館プリズムホール大ホール

<連絡先>沼津 愛(0721)26-3679



松蔭女子学院大学コールコスモス 第31回定期演奏会

- I. 女声合唱組曲「海は見てきた」より 作曲/平吉毅州

II. 企画ステージ「天使にラブソングを」より

III. 女声合唱とピアノのための「ファンタジア」 作曲/木下牧子

客演指揮/斉田好男 指揮/本村めぐみ ピアノ/大辻智子・鈴木典子・平林陽

1993年12月26日(日) 開場P.M.5:30開演P.M.6:00 神戸文化ホール

<連絡先>芝合のりこ(0727)94-0872



第26回武庫川女子大学コーラス部 定期演奏会

I. 女声合唱のための「地球はセ・シ・ボン」より 指揮/森美由紀 伴奏/衣畑里美

II. アポリネールの詩による四つの無伴奏小品集「白鳥」 指揮/畑 儀文

III. 女声合唱組曲「少年の詩」 指揮/毛利明子 伴奏/木村由香

IV. 「SIX CHOEURS」より 指揮/平田 勝 客演伴奏/藤澤篤子

1994年1月13日(木)開場P.M.5:30開演P.M.6:00

西宮市民会館アミティーホール

<連絡先>武田麻理子(0726)81-4462



大阪樟蔭女子大学コーラス部 第30回定期演奏会

I. 富山に伝わる3つの民謡 指揮/村井絹子

II. 女声「少年少女」のための合唱組曲「さる」 指揮/富岡 健

III. 30周年記念OG合同ステージ 指揮/加藤直四郎 指揮/富岡 健

IV. 企画ステージ「中味はひ・み・つ♡」 指揮/富岡 健

1994年1月23日(日)

吹田市文化会館メイシアター大ホール

<連絡先>石橋佐知子(07437)9-1070



神戸女学院大学コーラス部第34回定期演奏会

I. MISSA "ADESTE FIDELES" 作曲/LEV. CARLO LOSSINI

指揮/植山愉美子

II. 女声合唱組曲「暁と夕の詩」 作曲/木下 牧子 指揮/西川 智子

III. 企画ステージ「ミュージカル CATS」 指揮/植山愉美子

IV. 女声合唱のための「抒情三章」 作曲/萩原 英彦 指揮/植山愉美子

1994年3月3日(木) 開場P.M.5:30開演P.M.6:00 神戸文化大ホール

<連絡先>田村綾子(06)492-2000

関西六連20年の歴史

関西六大学合唱連盟誕生!

昭和36年12月14日、中之島中央公会堂において関西六大学チャリティーコンサートがフレンズ国際ワークキャンプの主催によって開催された。そしてそれ以来暖められてきた関西六連は、昭和39年12月17日、京都金館第一ホールにおける関西六大学合唱演奏会としてついにその実を結ぶことになった。その当時の構成大学は関大、関学、同志社、立命館、京大、神大であった。

その後二回目が昭和41年に行われたが、これを最後に京大が脱退、代わって甲南大学が新加盟して昭和42年5月6日に新たに関西六大学合唱演奏会として再スタートした。この同じ構成大学で三年続くが大学紛争のあおりを受け神大が脱退、関西六連は一時途絶えることになる。

それから五年「第一回関西六大学合唱演奏会」が現在の構成大学で厚生年金会館大ホールにおいて開催され、ここに新生六連の復活を遂げた。

過去に二度に及ぶ大きな変革を経て現在の関西六連が存在しているのである。



今宵、第20回関西六大学合唱演奏会が開催されますことを、心からお祝い申し上げます。すっかり関西の代表的な大学男声合唱団六団体の秋の演奏会として定着している、関西六連も、本年は20周年を迎えられたそうで、ついに<大人>の仲間入りですね。

お互いに、六連の魅力といえは、<六つの合唱団の個性のぶつかり合い>である、単独ステージ、なぜかそんな六つの合唱団が<一つになってしまう>合同ステージ、それに尽きるでしょう。特に合同ステージは六団体、大人数でしかできない<夢>というものをもっています。今宵は、オーケストラと共に大合唱の<夢>をみせていただけるとのこと。これからもお互い<夢>に向かって、歌い続けてまいりましょう。フレフレ六連!

東京六大学合唱連盟

第20回関西六大学合唱演奏会のご開催を心よりお祝い申し上げます。

20年目を迎えて、すっかり関西の秋の風物詩として、合唱界のみならず、広く一般のお客様の心を捉えて離さない「六連」であります。こうしてこの原稿を書いている時も、今宵の演奏会への期待で、自然と胸が高鳴ります。

また、めまぐるしい社会の変化の中で、学生団体でありながら、毎年のように、六大学合同によるかくも盛大な演奏会を開催するには、関係者各位の不斷の努力があつてのことと思いますし、そして何よりも貴連盟の合唱に対する情熱がその発展を支えていると思います。そんな「六連」の皆様の、ひたむきさに、我々は、「男声」「混声」の違いを越えた深い共感を覚え、いつも影響されてきました。

さて、今宵のステージでは、合同演奏に佐々木 修先生をお迎えしての「タンホイザー」を演奏なさること、たいへん楽しみにしています。(昨年の私どもの演奏会で客演にお招きした折りの、指揮台の上を所狭しと動き回る、あのパワー溢れる指揮は、いまだに印象的です。.... 佐々木先生ごめんなさい。)

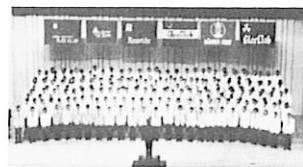
最後になりましたが、今宵の演奏会の御成功と貴連盟の更なる御発展を心からお祈り申し上げます。

関西学生混声合唱連盟

■第1回演奏会

'74.11.1 大阪厚生年金会館大ホール

- ・甲南大学グリークラブ
- ・関西大学グリークラブ
- ・立命館大学メンネルコール
- ・関西学院グリークラブ
- ・大阪大学男声合唱団
- ・同志社グリークラブ
- 東北地方の民謡による七つの男声合唱曲
- 男声合唱組曲「月光とピエロ」
- 男声合唱組曲「水のいのち」
- Negro Spirituals
- 合唱のためのコンポジション
- 男声合唱曲「智恵子抄」より
- 〔合同演奏〕デュオパのミサより「クレド」 指揮 北村協一



第20回関西六大学合唱演奏会の御開催、おめでとうございます。この記念すべき年に、第1回当時の思い出などを執筆できますこと、心より嬉しく思います。さて、第1回当時のことを思い出しますと、20年前の連盟発足の当初にも演奏会開催に当たる前から並みならぬ熱意と大変な苦労があったことを思い出します。それは、東京六大学に対するライバル意識と、新関西六大学結成への意欲の高まりであったと思います。そのため、第1回目を開催する1年前から「連盟結成準備会」を組織し、一般者は一切入れず六大学のメンバーだけで「準備のための交歓演奏会」を開催したのです。そこでは演奏だけでなく、ステージの上でプロフィールを紹介したり、演奏の感想を述べ合ったりして、お互いを知り合った上で本演奏会へとつなごう、というものでした。その間、指揮者会議も数回持ち、合同曲や合同練習等について打ち合わせを続けましたが、私事になりますが、そこで知り合った当時の立命館大の指揮者、糸井成人氏とは偶然にも同郷であり、現在はお互いに教師仲間として交際を続けております。そ

そんなご縁にも恵まれ、まだまだ多くのエピソードも懐かしい関西六大学合唱演奏会ではありますが、この輝かしい伝統を守り、今後ますます発展していくことを心より期待しております。一層のご活躍とご盛会を祈ります。

甲南大学グリークラブ元学生指揮者 後藤 昌典

■第2回演奏会

'75.10.28 大阪厚生年金会館大ホール

- ・立命館大学メンネルコール
- ・甲南大学グリークラブ
- ・大阪大学男声合唱団
- ・同志社グリークラブ
- ・関西学院グリークラブ
- ・関西大学グリークラブ
- 男声合唱組曲「蛙」
- Musical Fantasy Mary Poppins」より
- コダーイ男声合唱曲
- 男声合唱組曲「大手拓次の三つの詩」
- 男声合唱のための「アイヌのウポポ」
- 男声合唱組曲「父のいる庭」
- 〔合同演奏〕男声合唱組曲「富士山」 指揮 福永陽一郎



■第3回演奏会

'76.10.19 フェスティバルホール

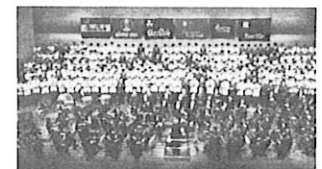
- ・関西大学グリークラブ
- ・立命館大学メンネルコール
- ・甲南大学グリークラブ
- ・大阪大学男声合唱団
- ・同志社グリークラブ
- ・関西学院グリークラブ
- チャイコフスキー歌曲集
- Sea Shantyより
- 男声合唱組曲「愛と悲しみ」
- コダーイ作品集
- Messe Solennele
- Negro Spirituals
- 〔合同演奏〕男声合唱組曲「海の構図」 指揮 関屋 晋



■第4回演奏会

'77.11.3 フェスティバルホール

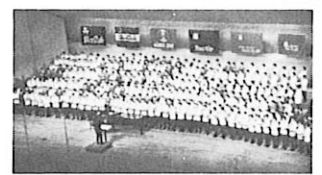
- ・関西学院グリークラブ
- ・大阪大学男声合唱団
- ・同志社グリークラブ
- ・甲南大学グリークラブ
- ・関西大学グリークラブ
- ・立命館大学メンネルコール
- ミュージカル「南太平洋」より
- 合唱による風土記「阿波」
- 男声合唱組曲「沙羅」
- 男声合唱組曲「おじさんの子守唄」
- 男声合唱組曲「追憶の窓」
- 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」
- 〔合同演奏〕「僧侶の合唱」「狩人の合唱」「囚人の合唱」「巡礼の合唱」「水夫の合唱」



■第5回演奏会

'78.11.3 フェスティバルホール

- ・同志社グリークラブ
- ・関西学院グリークラブ
- ・大阪大学男声合唱団
- ・立命館大学メンネルコール
- ・甲南大学グリークラブ
- ・関西大学グリークラブ
- 男声合唱組曲「北斗の海」
- Robert Shaw愛曲集
- 合唱のためのコンポジション第6番
- 男声合唱組曲「青い照明」
- 運命の歌—SCHICKSALSIED—
- 男声合唱組曲「雪明りの路」
- 〔合同演奏〕男声合唱のための「おおさか」—委嘱作品— 指揮 外山雄三



“六連”が20回を迎えることに、正直言って驚いています。

私が六連を担当させて頂いたのは第5回るとき。まだまだ歴史の浅い演奏会で、当時は“六連”をどのように位置付けて行くのか? 毎回が試行錯誤の繰り返しでした。〔六連運動会〕〔大フィルとの協演〕〔合同曲委嘱〕〔MC (司会者) の起用〕等は、ほんの一部です。

こんなエピソードも、知名度の低さゆえのことでしょう。ある日、パンフ広告の掲載依頼のため、立命の奥山君と二人で、西三荘の松下電器を訪ねたときのこと。事前のアポにもかかわらず、受付で担当者不在と言われ、引き返すのも悔しいのでネバること一時間。枚方のグラウンドにいる〇〇に会えと言われ、一歩前進。午後1時すぎにたどり着きました。本社から連絡が入っていたので、その人(直接の担当者ではない)はとても親切にして下さいました。こちら必死で、“関西六大学合唱連盟”は…云々と説明しているうちに、何となく両者の話に違和感を覚え始めました。しかし、せつなく盛り上がっている話に水を差してはいかんと思い、なおも進めて行くうち、先方から突然“関西六大学野球連盟”という言葉が飛び出したときには、我々二人、しばらく何も言えませんでした。本社であちこち回されているうちに“合唱”から野球に変わってしまい、枚方の某氏は、最初から野球連盟と思い込んで話を聞いていたそうです。

こんな話も、今では懐かしい思い出です。最後に、20回を迎えた六連が、ますます発展されんことを願うとともに、六大学が一同に会する意味を改めて見直し、合唱界のみならず日本中の音楽ファンたちが注目するような、思い切った企画に挑戦して欲しいと思っています。

元関西大学グリークラブ 六連担当マネージャー 西岡 祐司

■第6回演奏会

'79.11.3 フェスティバルホール

- ・大阪大学男声合唱団
- ・同志社グリークラブ
- ・関西学院グリークラブ
- ・関西大学グリークラブ
- ・立命館大学メンネルコール
- ・甲南大学グリークラブ
- 「DAS LIEBESMAHL DER APOSTEL」より
- 「MASS No. 2 IN G」より
- 男声合唱組曲「蛙の歌」
- 男声合唱組曲「富士山」
- 男声合唱組曲「わがふるき日のうた」
- 「MISSA In honorem Sancti Huberti」
- 〔合同演奏〕「SEA SHANTY」より 指揮 北村協一



■第7回演奏会

'80.11.3 フェスティバルホール

- ・甲南大学グリークラブ
- ・関西大学グリークラブ
- ・立命館大学メンネルコール
- ・関西学院グリークラブ
- ・大阪大学男声合唱団
- ・同志社グリークラブ
- ZIGEUNERLIEDER (ジプシーの歌)
- 男声合唱組曲「吹雪の街を」
- 「月下の一群」
- Negro Spirituals
- 男声合唱と二台のピアノのための「レクイエム」より
- 男声合唱組曲「雪と花火」
- 〔合同演奏〕「十の詩曲」より 指揮 浅井敬堂





■第8回演奏会

'81.11.3 フェスティバルホール

- ・立命館大学メンネルコール
 - ・甲南大学グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - ・同志社グリークラブ
 - ・関西学院グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - （合同演奏） MESSE DE L'ORPHEON 指揮 根津 弘
- 男声合唱組曲「海鳥の詩」
 - 「さすらう若人の歌」
 - 男声合唱組曲「若しもかの星に」
 - ルネッサンス合唱曲集
 - 合唱による風土記「阿波」
 - 男声合唱組曲「光のうた」



■第9回演奏会

'82.11.3 フェスティバルホール

- ・関西大学グリークラブ
 - ・立命館大学メンネルコール
 - ・甲南大学グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - ・同志社グリークラブ
 - ・関西学院グリークラブ
 - （合同演奏） 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」 指揮 関屋 晋
- 男声合唱組曲「水墨集」—委嘱作品・初演—
 - 男声合唱組曲「隠岐四景」
 - 「アーン歌曲集」より
 - 「男声合唱のための祝歌・悲歌・恋歌」
 - ZIGEUNERLIEDER Op.103 (ジプシーの歌)
 - 「Sea Shanty」より



■第10回演奏会

'83.11.3 フェスティバルホール

- ・関西学院グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - ・同志社大学グリークラブ
 - ・甲南大学グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - ・立命館大学メンネルコール
 - （合同演奏） 「LES PRELUDES. (前奏曲)」 指揮 福永陽一郎 —合唱初演—
- フランスの詩による男声合唱曲集「月下の一群」
 - 男声合唱とピアノのための「祈りの虹」委嘱作品・初演
 - 男声合唱組曲「わが歳月」
 - 「愛の歌」「新・愛の歌」より—ブラームス生誕150周年記念演奏—
 - 男声合唱組曲「木下杢太郎の詩から」 新版・初演
 - 男声合唱組曲「春と修羅」 (mental sketch modified) 委嘱作品・初演

第20回の関西六大学合唱演奏会の、開催おめでとうございます。10年も前になりますが、私達10回のマネージャーも、何か記念になる演奏会にしよう、いろいろなことを、考えました。まず最初に出た案はオーケストラの伴奏で歌いたい、ということでした。そして、某オーケストラに打診した所、リハーサル1回、本番1回で150万円でした。当時、六連の人数が多かったので、経済的にはできない訳ではなかったのですが、オーケストラの伴奏で初めて歌うのに、1回の練習で満足の行くものができるだろうか、そう考え、断念しました。

記念になるだけでなく六連メンバーすべてが満足し、音楽的にも素晴らしいものにしよう。そう考えた私達は、福永陽一郎先生に委嘱をお願いすることに決めました。

決定してから大変な演奏会でした。福永先生が、体調をくずされ、練習指導を富岡健先生にお願いしたり、それまで2~3回だった合同練習のかわりに、各校を先生が回られその後2校での合同練習。そして3校での合同練習。最後に6校で合同練習するという今まで考えられなかったほどの、練習をこなしました。

この演奏会を打ち上げたとき、大変な事をやり遂げた自信で一杯でした。そして、この思い出は、福永先生の、思い出と一緒に、いつまでも、私達の心の中で生き続けることでしょう。

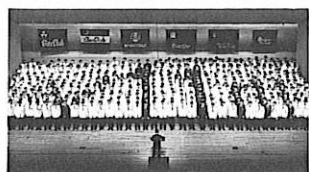
元関西学院グリークラブ 六連担当マネージャー 八木 徹



■第11回演奏会

'84.11.3 フェスティバルホール

- ・同志社グリークラブ
 - ・関西学院グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - ・立命館大学メンネルコール
 - ・甲南大学グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - （合同演奏） 「コダーイ男声合唱曲集」より 指揮 洲脇光一
- Zigeunermelodien Op-55
 - 「シューベルト男声合唱曲集」より
 - 男声合唱とピアノのための「ことばあそびうたII」
 - 男声合唱組曲「富士山」
 - 「メンデルスゾーン作品集」より
 - 男声合唱組曲「北斗の海」



■第12回演奏会

'85.11.3 フェスティバルホール

- ・大阪大学男声合唱団
 - ・同志社グリークラブ
 - ・関西学院グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - ・立命館大学メンネルコール
 - ・甲南大学グリークラブ
 - （合同演奏） Requiem in D minor 管弦楽 関西フィルハーモニー管弦楽団 指揮 小松一彦
- 「合唱のためのコンポジションIII」
 - Ein Liebesliederbuch (愛の詩集)
 - 男声合唱組曲「草野心平の詩から」
 - 男声合唱組曲「三崎のうた」
 - 男声合唱組曲「燈台の光」—委嘱作品・初演
 - 7つのスペイン民謡

■第13回演奏会

'86.11.2 フェスティバルホール

- ・甲南大学グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - ・立命館大学グリークラブ
 - ・関西学院グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - ・同志社グリークラブ
 - （合同演奏） 男声合唱曲「岬の墓」 指揮 関屋 晋
- 男声合唱組曲「木下杢太郎の詩から」
 - 男声合唱組曲「若しもかの星に」
 - 男声合唱組曲「五つのラメント」
 - Robert Shaw Chorus Album
 - 「おとずれ」〜太宰治「トカントン」による〜 —委嘱作品・初演—
 - 7 Negro Spirituals



■第14回演奏会

'87.11.3 フェスティバルホール

- ・同志社グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - ・甲南大学グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - ・立命館大学メンネルコール
 - ・関西学院グリークラブ
 - （合同演奏） HELGOLAND—本邦初演— オーケストラ 大阪フィルハーモニー交響楽団 指揮 朝比奈 隆
- 「Nänie」(哀悼歌) Op-82
 - 男声合唱組曲「御桶」
 - Zigeunermelodien, Op-55
 - 男声合唱組曲「草野心平の詩から第三」—委嘱作品・初演—
 - 男声合唱組曲「海鳥の詩」
 - 男声合唱組曲「雪明りの路」

■第15回演奏会

'88.11.3 フェスティバルホール

- ・関西学院グリークラブ
 - ・立命館大学メンネルコール
 - ・同志社グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - ・甲南大学グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - （合同演奏） 「スロヴァキア民謡曲集より」 指揮 洲脇光一
- 男声合唱とピアノによる「祈り」
 - From the Greek Anthology Five unaccompanied Part-songs for TTBB Opus.45
 - Drinking song
 - 「Die Tageszeiten」op.76
 - 男声合唱組曲「わが歳月」
 - 「メンデルスゾーン男声合唱曲集」より
 - 「今でも...ローセキは魔法の杖」無伴奏男声合唱のための

第20回関西六大学合唱演奏会開催おめでとうございます。私は第11回15回の2度合同の指揮をさせていただきました。曲目はいずれもハンガリーのコタイ、バルトークの作品で言葉の発音、理解に大変苦労を掛けました。しかし当時の学生諸君は厳しい練習ををこなし、まずまずの演奏が出来たと思っています。この練習に初めて参加した時驚いたことは、私の注意に対し「ハイ」の返事が返ってきた事です。私もグリーの出身者です、2-3時間直立不動の姿勢で練習することには慣れていましたが、運動選手が練習中掛け声をかける様に返事が返ってくるのは、初めてでありました。まず考えた事は「発声に良いのだろうか」「音楽を創造する、繊細な神経を集中させるに良いのだろうか」でした。しかもっと驚いたのは、この練習スタイルが今や多くの大学合唱団の練習スタイルとなっていることです。そうしてここから、あの一糸乱れず、力強い音楽が創造されるのです。今夏、カナダで世界合唱音楽シンポジウムが開催され出席して来ました。ここで日本の合唱を聴かれた欧米合唱指揮者の方々に印象を聞きますと、「管理された見事な合唱」「ミリタリーの様な合唱」と言ったところでした。これは、私をも含め日本の合唱に対する忠告であると思います。最近演奏に接した、ウブサラ、ヘルシンキ、タリン各大学の合唱団は一人一人が主体的にアンサンブルに参加見事なハーモニーを聞かせてくれました。それは自由に伸びやか、そして秩序のある素晴らしい大人の音楽でありました。20回を機に新たな歩みを期待して感想を述べました。ご盛會を祈っております。

第15回演奏会 合同演奏指揮 洲脇 光一



■第16回演奏会

'89.11.3 フェスティバルホール

- ・関西大学グリークラブ
 - ・甲南大学グリークラブ
 - ・関西学院グリークラブ
 - ・立命館大学メンネルコール
 - ・同志社グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - （合同演奏） 「ラ・マンチャの男」 指揮 富岡 健
- 男声合唱組曲「富士山」
 - 「イタリア歌曲集」より
 - 「Sea Chanties」
 - 男声合唱組曲「王様」
 - 「Lieder eines fahrenden Gesellen」(さすらう若人の歌)
 - 「ロシア民謡」より



■第17回演奏会

'90.11.3. フェスティバルホール

- ・大阪大学男声合唱団
 - ・同志社グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - ・甲南大学グリークラブ
 - ・関西学院グリークラブ
 - ・立命館大学メンネルコール
 - （合同演奏） 男声合唱のための「四つの仕事唄」 指揮 平田 勝
- 男声合唱組曲「月光とビエロ」
 - From The Sunny South
 - 男声合唱組曲「吹雪の街を」
 - シベリウス男声合唱曲集より—作品18—
 - 男声合唱組曲「蛙の歌」
 - 男声合唱曲 「岬の墓」



■第18回演奏会

'91.11.3 フェスティバルホール

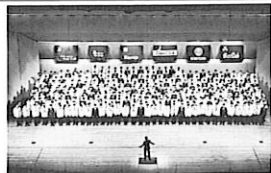
- ・立命館大学メンネルコール
 - ・関西学院グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - ・同志社グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - ・甲南大学グリークラブ
 - （合同演奏） 男声合唱組曲「富士山」 指揮 多田武彦
- 男声合唱のための組曲「ゆうべ、海を見た」
 - 「さすらう若人の歌」
 - 「チャイコフスキー歌曲集」
 - 男声合唱組曲「青いメッセージ」
 - 男声合唱組曲「五つのラメント」〜草野心平の詩による〜
 - Finnish Winter Chorale Works



■第19回演奏会

'92.11.1 フェスティバルホール

- ・甲南大学グリークラブ
 - ・関西大学グリークラブ
 - ・立命館大学メンネルコール
 - ・関西学院グリークラブ
 - ・大阪大学男声合唱団
 - ・同志社グリークラブ
 - （合同演奏） 「Negro Spirituals」
- 「Fünf Lieder Op.41」
 - 男声合唱組曲「水墨集」
 - 「さすらう若人の歌」
 - フランスの詩による男声合唱曲集「月下の一群」
 - 無伴奏合唱組曲「新月」
 - Musical「Man of La Mancha (ラ・マンチャの男)」
 - 指揮 石丸 寛



頑張れ、関大グリー！

私たちは、歌う・歌わないにかかわらずに、音楽を愛するという共通のハートで結びついています。過去を懐古する同窓会集団ではなく、未来を見つめた同好会集団として活動しています。

その源は、やはり現役時代から培われた「音楽を愛する」という気持ちです。

これからも、魅力あるOB会として、いろいろな企画をお届け致します。

関西大学グリークラブOB会

CHOR SECOINDE RECITAL

第6回

コール・セコインデ リサイタル

指揮/広瀬康夫 オルガン/太宰まり 他

男声合唱組曲
三崎のうた
北原白秋 作詩/多田武彦 作曲
合唱による風土記
阿波
三木 稔 作曲

CHRISTMAS SONGS IN AMERICA
etc.

1993年12月5日(日) 2:30P.M.開場 3:00P.M.開演 いずみホール

¥2,000

(午後2時よりホール窓口にて座席券と交換しています)

ホール規約により6才未満のお子様はご入場いただけません。

お問い合わせ: ☎06(261)8640 セントウエル内 中井 ☎0726(94)3539 土田

おさまらぬ感動・あふれる涙・いま青春

第43回東西四大学合唱演奏会

6・26

関西学院グリークラブ

同志社グリークラブ

慶応義塾ワグネルソサイエティ

早稲田大学グリークラブ

□4連クイズ□

○を埋めて4連へ行こう!!

☆第43回東西4連大学合唱演奏会は○月○○日のフェスティバルホールで!☆

正解が解かった方は官製ハガキに答え・住所・氏名・年齢・を明記のうえ、下記住所までご応募下さい。厳正な抽選の上、ペアで20名様をご招待します。

関西学院グリークラブ 〒662 兵庫県西宮市上ヶ原1番町1-155
TEL/FAX 0798-52-6471

PLANNING PRINTING

セントウエル印刷株式会社

●〒541 大阪市中央区久太郎町1-6-2 TEL. 06-261-8640

今年も5月3日、大阪城公園Aグラウンドにおいて関西六連恒例の大運動会が開催されるはずでした。が、前夜より降り続けた雨には勝てず、六連マネ必死のグラウンド整備もむなしく午前6時に中止決定。

それにもかかわらず連絡が間に合わなかったのが、8時頃にやってきた遠距離通学部員、50人、60人分のお弁当を前の日から用意して下さってしまった応援女子大の皆さん、我々の帰った後に差し入れをもって来てくれた某涉外の方、そしてこの日のために貴重な生活費を削って総額数十万円を仮装代につぎ込んだ大団員をはじめとする各大学団員の皆さん。それぞれの六連マネがそれぞれの大学なりの形式で詫言を入れたと思います。本当にごめんなさい。

演奏会の方は今年で20年目を迎えたわけですが通動会は今年で17年目、いい機会なのでずっと過去の優勝校を振り返ってみると、

'77 阪大	'81 阪大	'85 阪大	'89 同志社
'78 関学	'82 中止	'86 中止	'90 立命
'79 阪大	'83 甲南	'87 中止	'91 阪大
'80 中止	'84 阪大	'88 関学	'92 甲南

やはり人数が多いとそれぞれの競技特性を備えた人間が集まるのが阪大ダントツの6回優勝。ついで応援合戦のダンスは得意だが走るほうは…踊る合唱マシーン関学、一人が何種目にも参加できる良く言えば少数精鋭、悪く言えば駒不足の甲南が2回。さらに綱引では向かうところ敵なしの超学生重量級同志社と、おちゃめな仮装と競技中の鍋がすっかりおなじみになった立命の、毎年遠路はるばるやってくる京都勢コンピがそれぞれ1回ずつと続く。そして「最大のテーマは仮装と騎馬戦と本部襲撃である」と豪語する極悪関大、さすが騎馬戦以外の競技は二の次三の次、未だ優勝したことがないのであった。

残念ながら今年は中止となりましたがこちらのほうも演奏会と同様に回を重ねて行くと思います。そのときは応援女子大のみなさん、どうぞよろしく。



編集後記

本日は第20回関西六大学合唱演奏会にお越し頂きありがとうございました。
今年のパンフレットは「読みごたえのあるものを」と思い製作しましたが如何でしたでしょうか。
さて、新メンバーを組んで早一年。思い起こせばいろんなことがありました。まず、各団の指揮者を集め技術系委員会を新設しました。そしてマネージャーでは分かりにくい技術面について全面的に任せることにしました。
次に、初仕事である六連運動会に取り組みました。今年は例年になく企画が進めていこうとしましたが、三月の末マネージャーの一人である同志社グリークラブの松田寅君が亡くなり、五月の運動会も雨で中止という結果になってしまいました。このような事情もあって演奏会は何とか成功させようと思い、1つ1つの仕事をマネージャー一同全力で取り組んできました。
この演奏会が皆様の心に少しでも残りましたら幸いです。松田寅君の御冥福をお祈りし、今後とも関西六大学合唱連盟が発展することを願います。
最後になりましたが、本日の演奏会開催にあたり御尽力くださいました諸先生方、広告主の皆様方、お忙しい中、快く原稿をお寄せ下さいました皆様方、そしてパンフレット、チラシ等の製作にあたり、親身になって相談にのって下さいましたセントウェル印刷の中井様、並びに御来場下さいましたすべての皆様に対し厚く御礼申し上げます。今後とも関西六大学合唱連盟に御指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

関西六大学合唱連盟

関西六大学合唱連盟常任委員

同志社グリークラブ	打田 俊 明(会 計)
大阪大学男声合唱団	今 仁 武 臣(幹 事)
甲南大学グリークラブ	川 野 良 雄(印 刷)
関西大学グリークラブ	中 原 由 志 貴(印 刷)
立命館大学メンネルコール	鳥 本 俊 彦(ステージ)
関西学院グリークラブ	伴 野 考 司(ステージ)

第21回演奏会実行委員会

同志社グリークラブ	久 堀 太 士
大阪大学男声合唱団	田 中 克 成
甲南大学グリークラブ	岸 見 貴 志
関西大学グリークラブ	鈴 木 貴 裕
立命館大学メンネルコール	野 口 輝 久
関西学院グリークラブ	山 崎 忠 大

'93 第35回関西大学グリークラブ定期演奏会

■1993年12月12日(日) フェスティバルホール 開場17:30 開演18:30

- ・「JAZZ STANDARD NUMBERS」 指揮 小栗知之
 - ・「MISSA in honorem St.Matthiae」 指揮 Robert Vliegen
 - ・「光の海」男声合唱とピアノのための 作詩 多田智満子 作曲 遠藤雅夫 指揮 本山秀毅 ピアノ 石原香央理
 - ・男声合唱組曲「草野心平の詩から・第三」 作詩 草野心平 作曲 多田武彦 指揮 小栗知之
- <連絡先> 筒井 建夫 Tel(06)389-8194(内線203) 中原由志貴(06)339-7760

'93 第89回同志社グリークラブ定期演奏会

■1993年12月13日(月) ザ・シンフォニーホール 開場17:00 開演18:00

- ・男声合唱曲「永訣の朝」 作詩 宮沢賢治 作曲 鈴木憲夫 指揮 福田研二 ピアノ 長田育忠
 - ・「de profundis」・「動物たちのコラール 第IV集」作曲 Arvo Pärt・萩原英彦 指揮 本山秀毅 オルガン 長田育忠 打楽器 小川真由子
 - ・MUSICAL「SOUTH PACIFIC(南太平洋)」作曲 Richard Rodgers 編曲 福永陽一郎 指揮 福田研二 ピアノ 戎洋子
 - ・革命詩人による「十の詩曲」より「六つの男声合唱曲」作詩 安田二郎 作曲 D.Shostakovich 指揮 佐渡 裕
- <連絡先> (夜間)坂野友紀 Tel(075)411-2434 BOX Tel(075)251-3185(呼)

'93 立命館大学メンネルコール第47回定期演奏会

■1993年12月18日(土) ザ・シンフォニーホール 開場17:30 開演18:30

- ・男声合唱組曲 緑深い故郷の村で 作詩 伊藤 整 作曲 多田武彦 指揮 川本光哉
 - ・男声合唱とピアノのための IN TERRA PAX—地に平和を—作詩 鶴見正夫 作曲 荻久保和明 指揮 川本光哉 ピアノ 上野順子
 - ・男声合唱のための 雨のやみかた 作詩 宮内徳一 作曲 荻原英彦 指揮 外山浩爾
 - ・Zigeunermelodien op.55 作詩 Adolf Heyduk 作曲 Antonin Dvorák 編曲 福永陽一郎 指揮 浦山弘三 ピアノ 藤澤篤子
- <連絡先> (夜間)秋田隆一郎 Tel(075)864-5227 BOX Tel(075)465-1111(内線2631)

'93 第41回甲南大学グリークラブリサイタル

■1993年12月22日(水) 神戸文化ホール大ホール 開場18:00 開演18:30

- ・4つのハンガリー民謡 他 作曲 Bartók Béla 指揮 西牧 潤
 - ・シューベルト男声合唱曲集 作曲 F.Schubert 指揮 江口 寿 ピアノ 今岡淑子
 - ・男声合唱組曲「冬の日の記憶」 作詞 中原中也 作曲 多田武彦 指揮 江口 寿
 - ・Ett Bondbröllop 作曲 A.Söderman
 - ・De profundis Op.56 作曲 L.Madetoja 指揮 松原千振
- <連絡先> 荒巻 智之 Tel(0797)86-3994 (森川方)

'94 大阪大学男声合唱団第41回定期演奏会

■1994年1月20日(木) フェスティバルホール 開場18:00 開演18:30

- ・男声合唱組曲「木下空太郎の詩から」 作詞 木下空太郎 作曲 多田武彦 指揮 大堀 力
- ・Enfance finie 作詞 三好達治 作曲 木下牧子 指揮 浅井敬壹 ピアノ 藤澤篤子
- ・CRAZY FOR YOU 演出・振付 堯 葉子 編曲 大塚晃一 指揮 吉田篤史
- ・シューベルト男声合唱曲集 指揮 大堀 力 伴奏 長田育忠

<連絡先> 安藤 薫 Tel(0727)52-7637

'94 第62回関西学院グリークラブリサイタル

■1994年1月22日(土) 神戸文化ホール大ホール 開場17:30 開演18:00

■1994年1月23日(日) 大阪フェスティバルホール 開場16:00 開演16:30

- ・ミサ曲ト調 作曲 Theodore Dubois AVE VERUM 作曲 Guy Ropartz 指揮 林雄一郎 オルガン 岡安早苗
- ・コダーイ男声合唱曲集 作曲 Kodály Zoltán 指揮 丸山武彦
- ・アッシジの聖フランチェスコの4つの小さな祈り 他 作曲 Francis Poulenc 他 指揮 広瀬康夫
- ・Student Prince—学生王子— 指揮 北村協一
- ・男声合唱組曲「水墨集」 作詩 北原白秋 作曲 多田武彦 指揮 北村協一

<連絡先> 関西学院グリークラブホール Tel(0798)52-6471